高等学校における教科指導の充実

公　民　科

「現代社会」における
課題追究学習と評価の工夫

栃木県総合教育センター
平成21年３月

ま　え　が　き

総合教育センターでは、平成17年度より、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、生徒の学力の向上に資することにあります。

教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の児童生徒の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策が打ち出されたり提言がなされたりしています。

平成19年12月に公表された、2006年のＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査（PISA）では、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力のそれぞれについて問題点が指摘されています。

また、平成20年12月には、国際数学・理科教育動向調査の2007年調査（TIMSS2007）の結果が公表されました。この調査では、学力低下に歯止めがかかったという分析がある一方で、パターン化された指導の弊害とも見られる結果も一部に見られ、思考力の育成に課題があることも指摘されています。

小学校と中学校の新学習指導要領が平成20年３月に公示されたのに続き、21年３月には、高等学校の新学習指導要領が公示される予定です。高等学校においては、数学と理科が24年度から、国語、地理歴史、公民、外国語が25年度から学年進行で実施されます。小・中学校、高等学校とも、今回の改訂の主な改善事項として、「言語活動の充実」、「理数教育の充実」が示されました。これらは、先に挙げた各種調査で、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られたことなどに対する改善策でもあります。

本調査研究においては、今年度、国語科、公民科、数学科、理科、外国語科（英語）の各教科で、各種調査の結果から指摘されている課題と教育界の動向を踏まえ、その解決を図るための授業改善について取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を有効に御活用いただければ幸いです。

最後に、調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成21年３月

栃木県総合教育センター所長
鈴　木　健　一

目　　　　　　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

事例１　職業観・勤労観の育成を目指した課題追究学習と評価の工夫・・・・・・ 2

事例２　思考力・表現力の育成を目指した論述指導と評価の工夫・・・・・・・・ 17

事例３　身近な商品を通して考えさせる課題追究学習と評価の工夫・・・・・・・ 36

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

※本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。
「とちぎ学びの杜」 http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/

「現代社会」における課題追究学習と評価の工夫

はじめに

現行の学習指導要領では、公民科「現代社会」の目標は、「人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。」とされている。さらに、学習指導要領解説では、「現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い」という部分について、「現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する」ことと「自ら人間としての在り方生き方について考える」ことの相互関連に留意した課題追究的な学習活動を目指す趣旨である、と述べられている。

このような学習指導要領の趣旨を踏まえて、本研究では、課題追究的な学習活動（以下、「課題追究学習」とする）を通して、生徒の思考力や判断力、表現力を育成し、人間としての在り方生き方を考えさせたいと思い、授業実践を行うこととした。

また、指導と評価の一体化という視点から、課題追究学習に対する評価についても検討した。思考力や判断力、表現力は、教師による観察や発問、生徒のレポート、発表、ワークシートや提出課題などをもとに評価することが多く、定期テストなどのペーパーテストで評価することはあまり行われていないのが現状である。そこで、本研究では、「現代社会」の課題追究学習の実践と合わせて、思考力、判断力や表現力を評価するペーパーテストの作成にも取り組んだ。

各事例の実践内容は次のとおりである。

事例１　職業観・勤労観の育成を目指した課題追究学習と評価の工夫

「社会とのかかわり」と「雇用と今日の労働問題」の単元において、自らの問題として進路選択や職業選択について考えさせ、生徒に職業観、勤労観を身に付けさせることを目指した。

事例２　思考力・表現力の育成を目指した論述指導と評価の工夫

「現代社会」の授業の中で様々な課題について考えさせ、自分の意見や考えを書かせることを通して、生徒の思考力や表現力を高めることを目指した。

事例３　身近な商品を通して考えさせる課題追究学習と評価の工夫

「市場経済のしくみ」の単元において、身近にある様々な商品から課題を発見させたり考えさせたりする活動を通して、生徒の思考力や判断力を育成することを目指した。

<研究協力委員>

栃木県立栃木商業高等学校　教　諭　興野寛久
栃木県立佐野松陽高等学校　教　諭　岩井謙治
栃木県立茂木高等学校　教　諭　藤田法彦

<研究委員>

栃木県総合教育センター　研修部　指導主事　阿久津　如　子

事例１　職業観・勤労観の育成を目指した課題追究学習と評価の工夫

１　ねらい

「現代社会」は、倫理、社会、文化、政治、経済など、様々な角度から現代を捉えるとともに、自己の在り方生き方について考える科目である。しかし、現代は社会の多様化、複雑化が進み、「現代社会」の授業が理論の羅列に陥ったり抽象的になったりしがちで、学習内容と自分たちの生活とを関連付けることが、生徒にとって難しくなってきている。そこで本事例では、『社会とのかかわり』と『雇用と今日の労働問題』の単元において、自らの問題として進路選択や職業選択について考えさせ、自分の意見を明確にするとともに、他人の考えも傾聴する活動を通して、生徒にしっかりとした職業観、勤労観を身に付けさせることを目指した。社会が日々変化し多様化する中で、主体的に自己の進路を選択し決定できる力を身に付けさせたい。また、意見の裏付けとしてグラフなどのデータを活用させ、資料活用能力の育成も図りたい。

評価については、学習した内容を踏まえた上で、学んだことを活用して考えさせたり、表やグラフ等の資料を読み取らせたりするなど、断片的な知識を理解するだけでは答えられないようなテスト問題の作成に取り組んだ。なお、実践は第１学年を対象に行った。

２　授業実践

実践１　社会とのかかわり

(1)単元名　現代に生きる青年

(2)単元の目標

生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに、自己実現と職業生活、社会参加等の在り方を考えさせ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の社会生活と青年の生き方に関心をもち、自己の生き方について考えようとしている。	青年期の意義と自己形成の課題について多面的・多角的に考察し、現代社会における青年の生き方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の社会生活に関する諸資料から、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、現代社会における青年の生き方を追究し考察した結果を適切に表現している。	青年期、自己実現、職業生活、社会参加などについて理解し、その知識を身に付けている。

(4)指導計画

時	学　習　内　容
1	青年期とは
2	青年期を充実させるために
3	自立に向けて
4	社会とのかかわり【本時】
5	私たちの生きがい

(5)本時の目標

職業生活の意義について、資料を活用して考察させ、自分の意見と他者の意見をまとめて適切に表現させるとともに、職業生活の意義と社会参加について理解し、基本的知識を身に付けさせる。

(6)授業展開（導入とまとめは省略した）

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
展開	20分	・求人資料を見て、自分が就職するならばどの企業がよいか、理由とともに考える。 ・グループをつくり、自分が選んだ企業とその理由を発表し合う。 ・グループの意見をまとめ、ワークシートに記入する。 ・グループの意見を発表する。	・選んだ理由が同じにならないよう、２つの企業を選ばせる。 ・選んだ理由が異なるよう、３つの企業を選ばせる。	・資料を適切に活用して職業生活の意義を多面的・多角的に考察し、意見をまとめて表現している。 【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 〔ワークシート、テスト〕
	15分	・職業生活の３つの意義についての説明を聞き、ワークシートに記入する。 ・職業生活の意義と関連付けながら、フリーターの問題点とボランティアの意義を考える。	・グループの意見が、職業の３つの意義のどれに該当するか考えさせる。	・職業生活の意義と社会参加について理解し、知識を身に付けている。 【知識・理解】 〔発問、テスト〕
	10分	・ジェンダーについて理解し、ワークシートのポスターの空欄にあてはまるキャッチコピーを考える。	・家庭における社会的性差に気付かせるとともに、望ましい社会参加の在り方を考える。	

(7)実践の概要

学校に来ている求人票をもとに作成した、41企業の事業所名、事業内容、職種及び基本給の一覧表を配付し、就職したい企業とその理由を、まず個人で２つ考させた。その後、グループを作らせ、話し合いにより３つにまとめて黒板に書かせた。実際の求人票を用いたことで、授業に対しての生徒の関心は高く、職業に就くことを自己の問題として考えることができた。「現代社会」の授業でのグループ学習はまだあまり経験がないため、アイスブレーキングの活動を取り入れて、誕生月ごとにグループを作らせたところ、うち解けた雰囲気で話し合いをすることができた。

（話し合いの様子）

グループからは次のような意見があげられた。

就職したい企業	選んだ理由	教師の分類
○○寿司株式会社	給料が高いから。月給が一番良いから。	A
	客の笑顔が見たいから。	B
○○製菓	お菓子作りが好きだから。　給料がいい。	C、A
○○スイミングスクール	スポーツが好きだから。楽しく続けられそう。	C
	小さい子が好きだから。	C
医療法人○○病院	リストラがなさそう。	A
○○ホテル株式会社	調理師に興味があるから。	C
税理士法人○○会計事務所	高校で学んだことを生かすため。	C
有限会社○○○美容室	人とふれあうのが楽しそうで興味がある。	C
ホテル○○○	陰でお客さんの役に立てるから。	B
○○食品株式会社	家から近いから。	該当なし
○○信用金庫	簿記が生かせそう。金融だから。	C
株式会社○○ホームセンター	家から近くて通いやすいから。	該当なし
○○ハム	有名なので。	A
○○薬品	経営が安定していて、つぶれなさそうだから。	A
○○○電機	家電が好きだから。	C
○○製作所	事務がやってみたい。	C

これらの意見を、教師が説明を加えながら、職業生活の３つの意義にあてはめていった。表中のＡは経済的自立に関する理由、Ｂは社会貢献に関する理由、Ｃは自己実現に関する理由である。

授業を行う前は、生徒からは「社会貢献」につながる意見が出ないのではないかと心配していた。しかし、「お客さんの役に立てる」「客の笑顔が見たい」等の理由をあげたグループがあり、スムーズに次の展開に進むことができた。「社会貢献」に関わる意見は、自分の発想にはない意見として感心して聞いていた生徒が多く、多様な考え方があることに気付いたようであった。

生徒は、このような模範解答のない意見交換に、活発に参加していた。意見を戦わせるような話し合いではなかったことも、生徒が安心して意見を出せる一つの要因であったようだ。

一方で、時間配分の難しさという課題があった。ポスターの空欄補充をさせながらジェンダーについて考えさせる学習では、時間が不足し、生徒への説明も不十分で、意図したほど効果が上がらなかった。ワークショップ型の授業には十分に時間を確保する必要があることを痛感するとともに、経験を重ねることで、より短時間で効率良く実施できる可能性があると感じた。

（グループの意見を黒板に記入する様子）

（教師が３つに分類しチョークで色分けした黒板）

■**ワークシート**(行書体の字は、板書等により生徒に書き込ませる内容の例)

VISION　2011

1年　　組　　氏名

1　求人資料の中から、就職したい企業を2つ選んでみよう。選んだ理由も書いてみよう。

選んだ企業		選んだ理由	
選んだ企業		選んだ理由	

2　グループの仲間はどのように考えただろうか、まとめてみよう。

選んだ企業		選んだ理由	
選んだ企業		選んだ理由	
選んだ企業		選んだ理由	

3　「職業の3つの意義」をまとめよう。

①経済的自立…収入を得る→人生設計

②社会貢献…社会的分業に参加→社会とのつながりを実感

③自己実現…個性を磨く→自分の適性にあった職業は生きがいになる

4　「職業の3つの意義」を参考に、次の質問に答えてみよう。

①なぜ、フリーターという進路選択は望ましくないとされるのか、考えてみよう。

経済的自立が難しいから

②なぜ、報酬(お金)を受け取らず働く、ボランティアが盛んになっているのか考えてみよう。

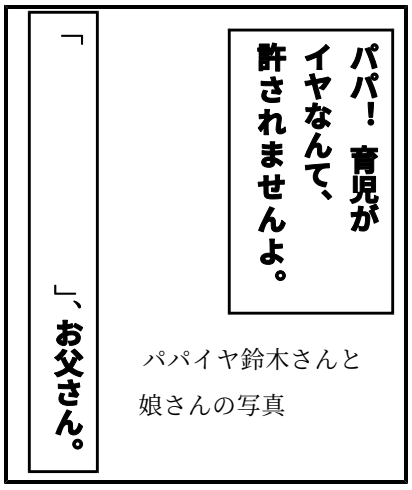
社会とのつながりを実感し、生きがいを感じられるから

5　現在では、女性が社会へ参加する(職業に就く)ことは一般的です。しかし、性差別や偏見、性別による固定的役割分担が根強く、男女が対等な社会の実現には至っていません。どの地域でも、社会や文化によって作られてきた「男性像」・「女性像」があり、このような男性、女性の別を社会的性差といいます。社会的性差自体は悪いことではありません。大切なことは、職場や家庭における時代にそぐわぬ社会的性差を改め、異性を尊重し、助け合うことです。

①社会的性差を別の言葉(カタカナ)では何と言うでしょう。

(ジェンダー)

②波線部の観点から、ポスターの「　　」に言葉を埋め、お父さんに対してメッセージを伝えてみましょう。(＊)



パパイヤ鈴木さんと娘さんの写真

(厚生労働省　平成14年度「仕事と家庭を考える月間(10月)」ポスター　厚生労働省ＨＰよりダウンロード可)

(＊実際のポスターでは“育児休業をとりましょう、お父さん。”)

(8)ペーパーテストによる評価

この授業を踏まえて、第１学期の期末テストでペーパーテストによる評価を行った。授業で学んだ「職業生活の３つの意義」についての理解度を問うと同時に、その知識だけでは答えられない問題を作成したいと考えた。また、社会参加をしていく上で課題となるジェンダーに関して、資料を読み取りつつ、自分自身の生き方の問題としてとらえさせ表現させたいと考えた。

作成した問題は以下の通りである。

問1　次はある曲の歌詞の一部である。［　　］には、占術師(=占い師)の職業の意義を示した歌詞が入る。授業で学んだ「職業の3つの意義」の観点にそれぞれに立って、占術師の仕事の意義を考え、答えなさい。(3つの意義の1つは解答欄に示してあるので、残り2つを考えること)

※ただし, 解答と前後の歌詞との関連はなくてもよい。

ご覧なさい
青い地球は変わらず回ってます
星も輝いてます
さあ学生さん
今はあとさき考えないでおやんなさい
きっとHappy Happy Time will come alone
ぼくなんかは恋を占う街角の占術師です
今日も30人くらい並んでます
［　　］です
きっとHappy Happy Time will come aloneと

【解答欄】

1つ目の意義	自分の生活費を稼ぐのに行う **仕事** **です**
2つ目の意義	**仕事** **です**
3つ目の意義	**仕事** **です**

【解答例】（各２点）

自分の生活費を稼ぐのに行う **仕事**	**です**
自分の好きな占いを行える **仕事**	**です**
お客様に元気を与える **仕事**	**です**

問2　近い将来、皆さんの多くは結婚をし家庭を築いてゆくことでしょう。家庭生活において、夫婦が力を合わせることは、とても大切なことです。しかし、「ジェンダー」や「男女共同参画社会」の観点で次の表を見ると、表から問題点を読み取ることができます。この問題点を答えなさい。またこの問題の解決のために、自分が夫(妻)となったらどのような行動をとることが望ましいか、答えなさい。

社会生活基本調査 (総務省統計局) (2006年)

（分）

世帯の家族類型 共働きか否か		睡眠	身の回りの用事	食事	通勤・通学	仕事	家事	育児	買い物	その他
夫の行動の平均時間	夫婦共働き	450	64	96	47	441	11	6	12	313
	妻は無業	454	64	98	55	414	10	12	16	317
妻の行動の平均時間	夫婦共働き	424	80	97	27	270	192	24	35	291
	妻は無業	437	77	106	0	4	275	81	50	410

【解答例】（４点）
問題点　夫が家事・育児に携わる時間が、妻に比べてとても少ない。
解決法　（特に共働き世帯では、夫が）家事や育児にかける時間を増やす。

＊曲はＫＡＮの「HAPPY TIME HAPPY SONG」、 空欄の歌詞は“迷う背中を3000円で押す役目”

日本音楽著作権協会（出）許諾第0901403－901号

問１は、授業で学んだ職業生活の３つの意義という「知識」を踏まえて、さらに、問題の設定に合った「まとめ方（表現力）」をみる問題として出題した。採点基準としては、「社会に貢献する仕事」や「自己を実現するための仕事」のような、教科書の言葉どおりの解答は部分点とし、歌詞の文脈に合った表現ができて正答とした。

「社会貢献」の意義を表現させる問いについては、正答が28%、部分点が59%、誤答が13%であった。また、「自己実現」の意義を表現させる問いでは、正答が63%、部分点が４%、誤答が33%であった。生徒にとっては、「社会貢献」という意義を、占い師の仕事に当てはめて表現することが難しかったようである。主な答例は以下のとおりである。

「社会貢献」の意義を表現させる問題	
正　答	「お客さんの恋の手助けをすることができる仕事」
	「他人に幸福をもたらす仕事」「みんなの知りたいことを教える仕事」
	「悩んでいる人を次の道へと導く仕事」「他人を励ますための仕事」
部分点	「社会に貢献するために行う仕事」「社会のために頑張る仕事」
	「相手のために行う仕事」
誤　答	「人に感謝された仕事」「人とふれあう仕事」「社会でやっていける仕事」
「自己実現」の意義を表現させる問題	
正　答	「自分の持っている能力、占いの力を生かす仕事」「才能を生かせる仕事」
	「自分の夢をかなえるために行う仕事」「自分にとってやりがいのある仕事」
	「自分に合っていて楽しくできる仕事」「自分の個性を生かした仕事」
部分点	「自己を実現させるために行う仕事」「自分の理想に合った仕事」
誤　答	「自分の生きがいを見つけるために行う仕事」
	「他人とコミュニケーションを図る仕事」「嫌なことを忘れるために行う仕事」
その他の誤答	
「お金をためるための仕事」「楽しい仕事」「家族を養う仕事」	

問２は、授業で学んだ「男女共同参画社会」や「ジェンダー」に関する理解を踏まえて、「資料の読み取り、分析」と「筋の通った思考、公正な判断」を評価する問題として出題した。

夫婦の行動時間の表から問題点を読み取らせる問題については、夫婦共働きか妻が無業かに関わらず、「夫の家事・育児に携わる時間が非常に少ない」ことがあげられれば正解とした。問題の解決法について記述させる問題では、自分が妻または夫の立場になったときの自分自身の行動として具体的に書くことができていれば正解とし、抽象的なものには中間点を与えた。

問題点を読み取らせる問題は、正答が63%、部分点が９%、誤答が４%であった。問題の解決法について記述させる問題は、正答が73%、部分点が14%、誤答が９%であり、約６割の生徒が両問ともに正答であった。主な答例は以下のとおりである。

表から問題点を読み取らせる問題	
正　答	「夫婦共働きでも家事は妻がほとんどやっている。」
	「家事・育児が、共働きでも無業でも妻の負担になっている。」
	「夫の家事・育児の時間が短く、妻にまかせすぎ。」
	「家事・育児の時間が妻に、仕事の時間が夫にかたよっている。」
部分点	「妻が無業の時、家事をする時間が夫よりもはるかに多くて不公平。」

	「性別役割がはっきりとできている。」 「家事や育児がうまく分担されていない。」
誤　答	「共働きにより家事や育児が大変である。」 「妻と夫の仕事をしている時間。」「家事は女の仕事と決めつける。」 「家事と子どもの世話が両立できない。」
問題解決のために自分がとる行動を記述させる問題	
正　答	「自分もちゃんと働き、夫と一緒に家事ができるように行動する。」 「男とか女とか関係なく、仕事も家事も育児もやる。」 「男性が仕事をする時間を減らし、家事や育児の時間を増やす。」
部分点	「空き時間を利用して手伝う。」「夫も協力する。」 「一緒に助け合って生活する。」「話し合って決める。」
誤　答	「女性の働く時間を増やす。」「社会に出て働く。」 「価値観がずれている人とは結婚しないようにする。」

定期テストでのこのような問題は、生徒にとって初めてのことであったが、問１、問２を通して、白紙解答の生徒は非常に少なかった。授業で学んだことが基本になっているため、考える手がかりはあったと考えられ、問題に取り組もうとする姿勢や意欲は高かった。

課題としては、採点の難しさがあげられる。自由に記述させる問題に対しては、多様な表現の解答があり、採点基準の設定に難しさを感じた。問２で読み取らせる資料も、当初はより難度の高いものを目指していたが、採点基準の作成が障壁となり、結果的には比較的平易な問題となった。

実践２　雇用と今日の労働問題②(就業形態の多様化)

(1)単元名　現代の経済社会と私たちの生活

(2)単元の目標

現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と産業保全について理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の経済社会の諸事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動の在り方について考えようとしている。	現代の経済社会の諸事象から課題を見いだし、個人と企業の経済活動における社会的責任等について多面的・多角的に考察するとともに、経済活動の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の経済社会に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を選択して活用するとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任や経済活動の在り方について考察したり追究した結果を適切に表現している。	現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と産業保全について理解し、その知識を身に付けている。

(4)指導計画

時	学　習　内　容
1	技術革新の進展と産業構造の変化
2	企業の役割と社会的責任
3	市場のしくみ
4	政府の経済的役割
5	財政の仕組みと税金
6	金融機関のはたらき
7	日本経済のあゆみ
8	中小企業の現状と役割
9	日本の農業と食料問題
10	雇用とこんにちの労働問題①(労働基本権、雇用事情の変化)
11	雇用とこんにちの労働問題②(就業形態の多様化)【本時】
12	労働環境の整備、社会保障と福祉社会
13	公害の防止から環境保全へ
14	消費者問題と消費者主権

(5)本時の目標

近年の就業形態の多様化、特に非正規雇用の増加に対する関心を高め、非正規雇用が増加した理由や背景を資料を活用して多面的、多角的に考察させる。

(6)授業展開

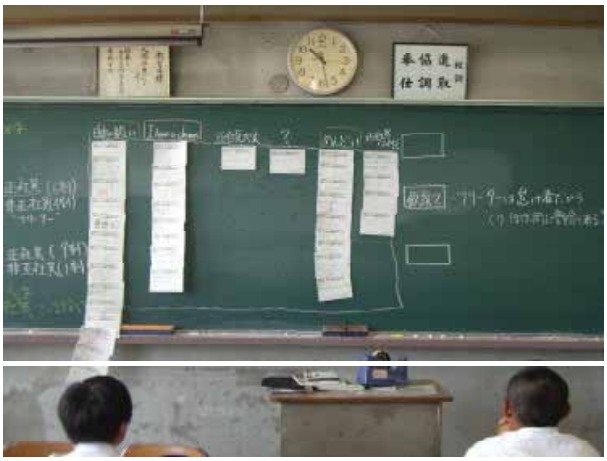
段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
導入	5分	・フリーターとは ・フリーターなど非正規雇用の現状	・以前の授業の内容と関連があることを確認する。	
展開	20分 20分	・フリーターとして働く理由を考え、各自紙に書いて黒板に貼る。 ・フリーターとして働く理由の裏付けとして、労働に関するデータを読み取り、クラスメートの多様な意見も参考にして理解を深める。	・自分の問題として考えさせる。 ・貼られた紙を、ＫＪ法的な手法でまとめ、３つの仮説を立てる。 ・労働に関する各種データを利用して仮説を検証する。	・非正規雇用の増加とその理由に対する関心が高まっている。 【関心・意欲・態度】 〔観察〕 ・資料を適切に活用して、非正規雇用増加の理由、背景を多面的、多角的に考察している。 【思考・判断】 【資料活用の技能・表現】 〔ワークシート、テスト〕
まとめ	5分		・黒板に貼られた意見を用いて、非正規雇用として働く理由や背景は様々であることを確認する。	

(7)実践の概要

初めにフリーターの定義について確認し、フリーターなど非正規雇用が年々増加し、現在は労働者のほぼ３人に１人が正社員でないことを説明した。現在高校１年生である生徒たちは、早い者は再来年には職業選択の問題に直面する。自分たちの就職や働き方、生き方に関わる問題として考えるよう促した。

生徒に、「なぜフリーターになるのだろう？フリーターを続けるのだろう？」という問いかけを記した用紙を配って考えさせ、１人１つの理由を用紙に書かせて、黒板に貼らせた。教師が、貼られた用紙を見て、全体に紹介しながら、似たような意見をまとめて、用紙を並べ替えた。

（生徒が貼った状態）



（教師が並べ替えた状態）

生徒から出た主な意見は、以下のとおりである。タイトルは教師が板書したものである。

タイトル	生徒の意見
①正社員はたいへん、フリーターは楽	「正社員になると大変なことが多いから」
	「正社員よりフリーターの方が楽だから」
	「仕事が長く続けられないから」
②やる気がない、面倒くさい	「仕事がめんどうくさい」「仕事をしたくないから」
	「働く気、やる気がないから」「自分に甘いから」
③自由が欲しい	「自由な時間が欲しいから」
	「好きな時間に好きなことができるから」
	「会社という枠に縛られずに自由に働きたいから」
	「正社員ほど仕事をしたくないから」
④就職口がなかった	「正社員になりたくてもなれないから」
	「就職先がない」「リストラにあった」
	「高卒だと雇ってくれるところが少ないから」
	「不景気だから」
⑤自分に合った道探し	「自分に合った仕事が見つからないから」
	「自分の夢や、やりたいことがあるから」
	「自分のやりたいことがみつかっていないから」
⑥その他（分類できなかったもの）	「資格がないから」
	「とりあえず今は生きていられるから」
	「親が金持ちなので働く必要がない」

上記①から⑥にまとめたものをワークシートの仮説１、２、３に結び付け、労働に関するデータから、仮説が正しいといえるかどうかを考えさせた。この３つの仮説は、生徒から出てくるであろう意見を予測して教師が立てたものである。

生徒から出た意見では、②「やる気がない、面倒くさい」と③「自由が欲しい」にあてはまるものが多かった。そのため、実際の授業では、最初に、ワークシートの仮説２「フリーターは怠け者だから」をとりあげ、検証させた。「就業形態別仕事と私生活に関する意識」から、「仕事のためには私生活を犠牲にすべきだ」という考えをもつ者の割合は、正社員とパート・アルバイトでほとんど差がなく、「私生活を犠牲にしてまで仕事に打ち込む必要はない」という考えをもつ者の割合は、正社員の方が高いことがわかる。必ずしもフリーターがやる気がなかったり、仕事より自分の自由な時間を優先していたりするとは言えず、生徒の考えは資料からは否定されることになった。

次に、①「正社員はたいへん、フリーターは楽」という意見を、仮説１「正社員の働く条件が厳しいから」に結び付けて、検証させた。「若年正社員の労働時間」から、１週間の労働時間が42時間以下の割合がやや増えている一方で、特に男性正社員で労働時間の長い者の割合が増えていることを読み取ることができた。

最後に④「就職口がなかった」という意見から、仮説３「正社員の採用が減ったから」を導き、「新規学卒入職者の正社員の割合」の資料で仮説を裏付けることができた。

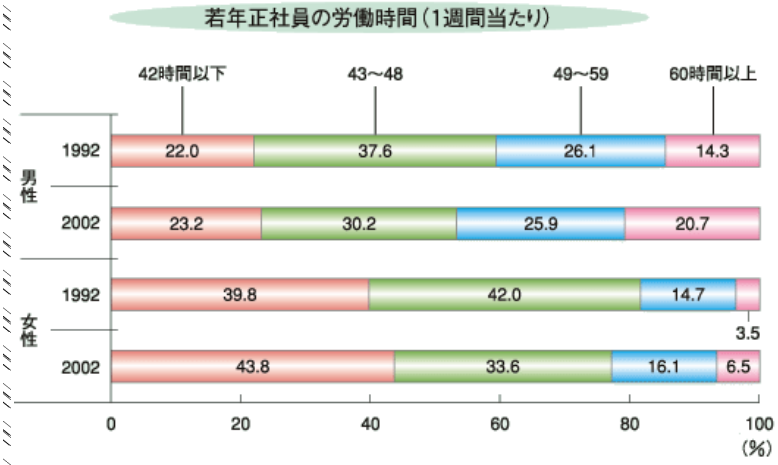
■**ワークシート**(行書体の字は、板書等により生徒に書き込ませる内容の例)

VISION　2011

１年　____組　　氏名_____

【なぜフリーターになるのだろう？】

仮説１…正社員の働く条件が厳しいから

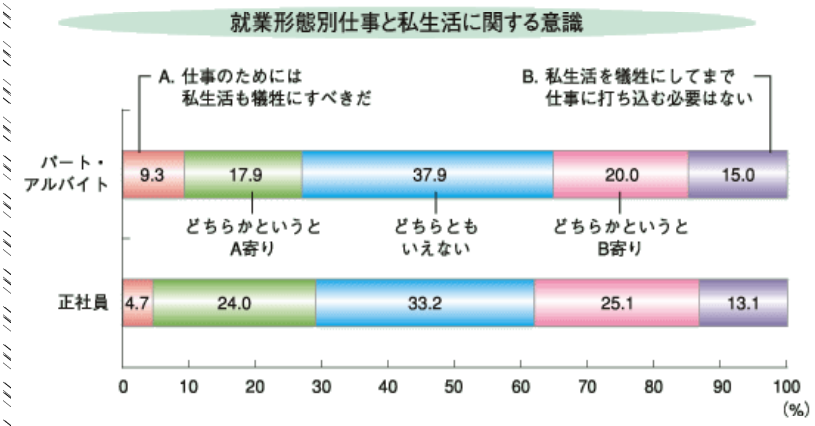


資料で確かめよう

●若年正社員(15～34歳)の92年と2002年における労働時間を比較すると、男女とも1週間の勤務時間が**(ア　４２)**時間以下の者の割合が高まっている一方で、**(イ　６０)**時間以上の者の割合が高まっており、二極化の傾向が見て取れる。

(総務省「就業構造基本調査」より)

仮説２…フリーターは怠け者だから

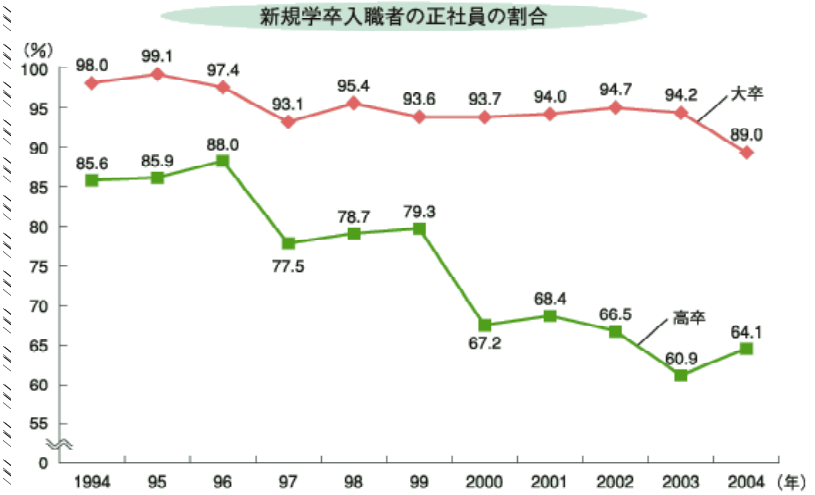


資料で確かめよう

●「職業生活をどのように考えていますか」の問いに対して、「仕事のためには私生活も犠牲にすべきだ」という考え方をもっている若年者の割合は、正社員とパート･アルバイトでは**(ウ　ほとんど変わらない　　)**。

(厚生労働省「若年層のキャリア支援に関する実態調査」より)

仮説３…リストラで正社員の採用が減ったから



資料で確かめよう

●正社員として就職する新卒者割合はここ10年で低下している。これは企業が**(エ　新卒正社員採用　)**を絞っていることによる。このため、正社員を希望してもパート･アルバイトとして就職せざるを得ない者が増えた。

(厚生労働省「雇用動向調査」より)

生徒には、「フリーター＝怠け者」というイメージがあることが予想されたため、いくつかの資料やデータを示し、必ずしもそうではないことに気付かせることができた。生徒は、多様な意見を聞くことで、物事にはいろいろな見方や考え方があることに気付いたようであった。

また、本年度は、例年に比べて課題追究型の授業を多く実施しているため、生徒からスムーズに意見が出るなど、学習活動に慣れてきた様子が見られた。仮説→実証(実験)という手法は、理科などでよく用いられるが、公民科でも同様の手法が行えることが分かった。

(8)ペーパーテストによる評価

この授業を踏まえて、第２学期の中間テストでペーパーテストによる評価を行った。「資料を読み取る力」や「資料と仮説の関連性、整合性を判断する力」を評価できる問題を作成したいと考えた。作成した問題は以下のとおりである。

問８　由子（よしこ）さんは、パートタイマーやアルバイトなどの非正規従業員として働くフリーターについて、「その人が怠け者だからフリーターになる」と考えていた。ところが、先日、授業で「正社員として就職できず、仕方なく非正規従業員として働いている人もいる」ことを学んだ。また、「女性は家事や育児を担うことが多く、非正規従業員として働いている人が少なくない」ことも知った。しかし、納得のいかなかった由子さんは、授業の後に自分で資料を調べた。その結果、由子さんは、授業で学んだこれらのことが実態であることを理解した。

次の**表**は，由子さんが調べた資料である。表の**A**～**D**にあてはまる言葉の組み合わせとして正しいものを、下の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

表　パート労働を選んだ理由の割合(複数回答)－男女いずれかが２０％を超えた回答のみ
パート…パートタイマーだけではなく、週の所定労働時間が正社員よりも短い労働者。

	自分の都合の良い日(時間)に働きたいから	勤務時間･日数が短いから	気軽に働けそうだから	A	B
C	43.1	30.1	31.2	21.8	0.2
D	52.7	40.9	18.4	24.5	20.7

(厚生労働省「平成１８年度パートタイム労働者総合実態調査」より作成)

記号	パート労働を選んだ理由	性別
ア	A…家事・育児の事情で正社員として働けないから B…正社員として働ける会社がないから	C…男 D…女
イ	A…家事・育児の事情で正社員として働けないから B…正社員として働ける会社がないから	C…女 D…男
ウ	A…正社員として働ける会社がないから B…家事・育児の事情で正社員として働けないから	C…男 D…女
エ	A…正社員として働ける会社がないから B…家事・育児の事情で正社員として働けないから	C…女 D…男

問９　年齢層別に見たわが国の女性の労働力率は、**図１**のように、20代と40代に２つのピークをもつ「M字型」を示している。この「M字型」を、1987年と2002年とで比較すると、特に25～34歳における「落ち込み」が浅くなっている。その理由、背景について、**Ａさん～Ｄさん**は下のように仮説を立てた。

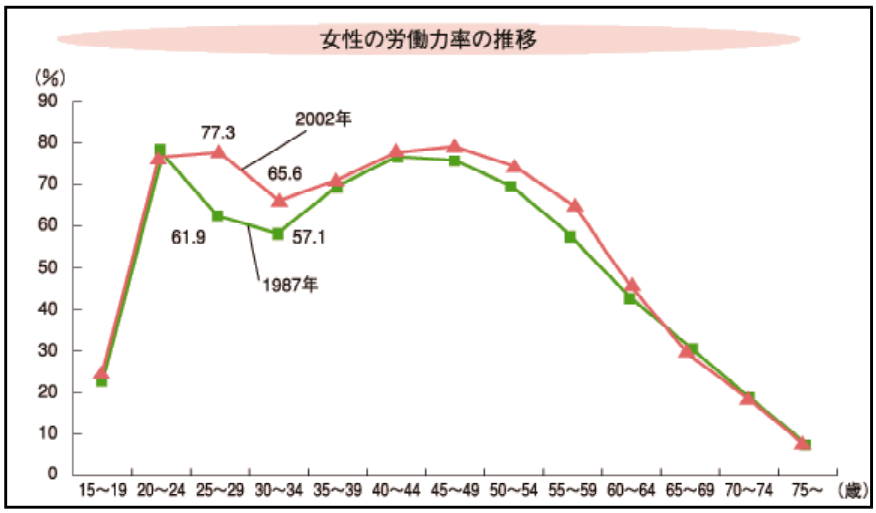


図１　女性の労働力率の推移（総務省「就業構造基本調査」より）

Ａさん　**男性の育児参加が進み、女性が以前よりも早く仕事に復帰できるようになった。**
Ｂさん　**結婚や出産をしても専業主婦にならず、仕事を続ける女性が増えた。**
Ｃさん　**子どもを出産する年齢が以前よりも上昇し、仕事を続ける女性が増えた。**
Ｄさん　**企業で中途採用が増え、30歳を過ぎても女性が仕事に復帰しやすくなった。**

次に**Ａさん～Ｄさん**は、自分の仮説を裏付けるため、統計書を調べた。**図２**を仮説の裏付けの１つとして示したのは、**Ａさん～Ｄさん**のうち誰か。

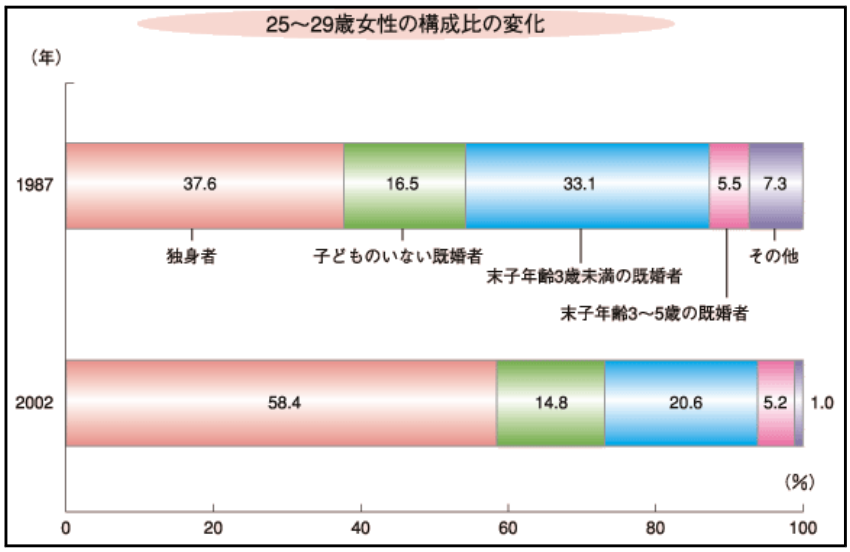


図２　25～29歳女性の構成比の変化（総務省「就業構造基本調査」より）

問８は、「授業後の自学自習」という場面を設定し、授業で学んだ「フリーターになる理由」をもとに、考える過程をなぞった出題とした。問題文中に、「仕方なく非正規従業員として働く人がいる」ことと「女性は家事・育児を担うことが多く、非正規従業員として働いている人が少なくない」ことの２点を結論として示す。次にその結論の根拠となる資料「パート労働を選んだ理由の割合」を提示する。理由のうち２つ（**A**、**B**）と性別（**C**、**D**）を空欄とし、理由と性別を組み合わせた選択肢を作成して、結論を導くためにはどの組み合わせが適切かを考えさせた。選択肢ごとの解答率は以下のとおりで、正答率は72%であった。

ア　14.7%　　**イ**　5.3%　　**ウ**　72.0%（正答）　　**エ**　8.0%

誤答のうち、**ア**は理由の判断を間違えたもの、**エ**は性別の判断を間違えたものである。この問題でポイントとなる、男女で大きく割合に差がある**D**の理由を、正しく判断できなかったと考えられる。

問９は、問題文と**図１**で「女性の労働率を1987年と2002年とで比較すると、25～34歳における落ち込みが浅くなっている」ことを述べ、その理由、背景についての４人の仮説を示す。次に、別の統計資料（**図２**）を提示し、４人のうち誰の仮説がその統計資料を根拠としているかを考えさせた。選択肢ごとの解答率は以下のとおりで、正答率は56%であった。

Ａ　6.7%　　Ｂ　30.7%　　Ｃ　56.0%（正答）　　Ｄ　6.7%

図２からは、2002年は1987年と比べて、20代後半の女性で、独身者の割合が大幅に増加し、子どものいる割合が減少したことが読み取れる。**Ｃさん**の仮説の「子どもを出産する年齢が以前よりも上昇し」という部分の根拠となるが、結婚や出産との関連から「**Ｂさん**」という誤答が多かったと思われる。資料の読み取りと判断に正確さや緻密さが必要とされる点で、やや難しかったようである。

問８、９ともに、資料を読み取り、それが仮説や結論とどのように結びつくのかを考え、判断させる問題である。授業で学んだことと関連させつつも、「知識」だけでは解けない問題であり、生徒に「資料を活用して考察し判断する」ことを要求するものである。生徒の学習の深化をある程度評価できる問題である。出題資料は、実践１より難易度の高いものを用いることができ、出題方法も択一式として、実践１で感じた採点の困難さ、問題の平易化という課題を解決することができた。

３　まとめ

(1)成果

本事例では、勤労観、職業観を身に付けさせることを目指した課題追究学習を実践した。授業時数、進度等の制約がある中で、50分の授業時間で実施できることを基本に考えた。授業の方法はＫＪ法を簡略化したもので、特に目新しいものではないが、いろいろな分野で簡単に応用できる方法であり、本事例で紹介した実践以外でも何度か実施することができた。その中で、生徒は、自分の意見を表明したり正答がひとつでないない解答を発表したりすることに少しずつ慣れ、回数を重ねる毎に、授業がスムーズに進められるようになった。今回の実践において、生徒は「現代社会」の学習を自分の生活や生き方と結び付け、進路や職業の選択について主体的に考えることができた。

また、本事例においては、思考力、判断力や表現力やを問うテスト問題の作成を目指した。「空欄への適語補充」、「○○は何か」、「○○を説明せよ」などの、従来のパターン化した出題形式ではない、断片的な知識だけでは解くことのできない問題を作成したいと考えた。試行錯誤する中で作問の手がかりが得られ、問題の一例を示すことができたと考えている。

作問の中で、教師もまた「学ぶ」ことができた。より深く教材を理解し、今後の指導にも生かせると感じた。また、作問の過程で、出題形式には様々な形があることに気付かされた。「考えさせる」

問題だから「論述式」とは限らず、「選択式」や「空欄補充」の形でも可能であることが分かった。

さらに、断片的な知識だけでは解けない問題を作成することの重要性と必要性を改めて認識した。テスト問題が「知識・理解」を問うものに終始していたのでは、生徒も「覚えればいい」と考えて当然である。テストが変われば、生徒の意識が変わる。また教師自身も、「知識・理解」に偏らない指導と評価を考えて授業を構築するようになり、授業に変化が生まれ、幅広い学力を身に付けさせる指導につながっていくのではないだろうか。

(2)課題

課題追究学習を行う際に留意すべき点として、何のためにこの学習を行うのかを、生徒にきちんと伝えることが大切であると感じた。学習の目標をはっきりさせなかったり、時間がなくなってまとめがきちんとできなかったりしたために、「いつもと違った授業で楽しかった」で終わってしまうことがあった。「活動」だけで終わらないように留意することが必要である。

また、生徒の話し合いを、単なる意見の交換から、討論へと発展させることの難しさを実感した。討論では、相手の意見の優れている点だけでなく、問題点を指摘し合うことが必要であるが、生徒にとっては、問題点を指摘することが難しい。生徒は、相手の意見を否定することで人格まで否定してしまうのではないかと恐れてしまい、思ったことを全て言うことができなかった。時間をかけて、自由に意見を述べ合える雰囲気を作る必要性を強く感じた。

そのためにも、特別の授業ではなく日常的に行う学びの一形態として、課題追究学習に取り組むことが必要である。「学び合い」の経験を積むことで、最終的には、生徒自ら課題を見出していくような課題追究学習を目指したい。

ペーパーテストの作成に当たっては、思考力、判断力などを適切に評価できる問いが作れるかどうかが重要である。素材や資料などの選定、難易度、紙面上のスペースや採点がしやすいかどうかなど、様々な課題があり、作問には予想以上の労力を要した。しかし、ノウハウを蓄積し、教師が作問に習熟することで、より少ない労力で質の高い問題作りを行うことは可能だと考えられる。今回の実践を生かし、今後も様々な単元において、生徒の多様な学力をはかることのできるペーパーテスト作成に取り組みたい。そして、生徒が現代の社会について関心をもって自ら考え、公正に判断し、自分の生き方を主体的に選択できる力を身に付けることができるように指導していきたい。

事例２　思考力、表現力の育成を目指した論述指導と評価の工夫

１　ねらい

この事例では、「現代社会」の授業の中で、生徒に様々な課題について考えさせ、自分の意見や考えを書かせることを通して、思考力や表現力を高めることを目指した。

授業に際して、なるべく多くの資料を提示し、ブレーンストーミングやイメージマップの作成等の手法を取り入れ、生徒から多様な見方、考え方を引き出すことを心がけた。また、ワークシートを活用して、考えや意見を書かせる時間をなるべく多く確保するようにした。

そして、授業の内容を踏まえて、定期テストにおける論述式の問題で評価することを試みた。採点基準をなるべく明確にして、教師が採点しやすく、生徒も納得できる評価の在り方を検討した。なお、授業実践は、第１学年を対象に行った。

２　授業実践

実践１　生命倫理と臓器移植について考える

(1)単元名　科学技術の発達と生命の問題について考える

（「現代に生きる私たちの課題」から選択）

(2)単元の目標

科学技術の発達と生命の問題について、自己との関わりに着目して課題を見いだし、課題を追究する学習を通して、科学技術の発達と生命の問題に対する関心を深め、自己の在り方生き方の問題として考えさせる。

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
科学技術の発達と生命の問題について、自己との関わりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。	科学技術の発達と生命の在り方について、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	科学技術の発達と生命の問題について、設定した課題を追究し考察した過程や結果を、口頭や文章などで適切に表現している。	科学技術の成果が社会のすみずみまで浸透するとともに、生命の在り方にまで影響が及んできたことについて理解し、その知識を身に付けている。

(4)指導計画

時	学　習　内　容
1	科学技術の発達と生命の問題
2	バイオエシックス～生命の質～
3	環境倫理～生命への畏敬～
4	臓器移植の課題

(5)実践の概要

「現代に生きる私たちの課題」から、「科学技術の発達と生命の問題」を取り上げ、「生命倫理と臓器移植について考える」というテーマを設定し、４時間構成で授業を実施した。その際、「民主社会の倫理」の単元で扱われているバイオテクノロジーや生命倫理、医療倫理といった内容も、テーマとの関連が強いことから、ここで併せて学習することとした。

生徒にとってあまりなじみのない難しいテーマであるため、１時間目の授業で近年話題となった「万能細胞」の開発を取り上げたり、２時間目で映画『パッチ・アダムス』を視聴させたりして、生徒がこの問題に興味を抱き、身近に感じられるように努めた。

２時間目に、導入で「臓器提供意思表示カード」を提示し、医療技術の発達が「脳死」という新しい死のありようを生み出し、脳死における臓器移植の問題を生じさせたことを確認した。「人の死をめぐる問題」と「医療の倫理」について基本的事項の理解を図った後、映画『パッチ・アダムス』の一部を視聴させ、望ましい医療の在り方について記述させ、何人かに発表させた。

≪２時間目≫

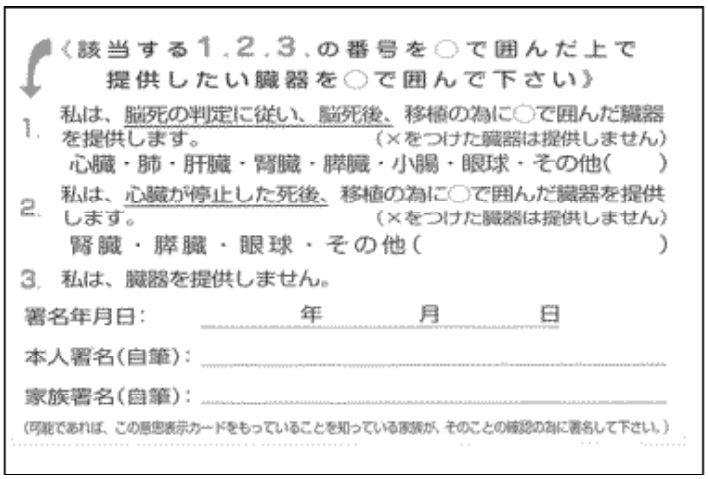
段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
導入	10分	・『臓器移植カード』を記入する。	・実物のカードも提示し、生徒の興味・関心を高める。 ・詳しい説明はせず、現時点で生徒が持っている知識で記入させる。	
展開	35分	・「死をめぐる問題」について、教科書を読んでまとめる。 ・医療の進歩が大きく影響していることを理解する。 ・「医療の倫理」について教科書を読んでまとめる。 ・映画『パッチ･アダムス』の一部を視聴し、私たちの意思が尊重される医療のあり方を考える。	・映画『パッチ･アダムス』のいくつかのシーンを視聴させ、医者は患者に対してどのように医療を施すべきなのかを考えさせる。	・「脳死」や「尊厳死」などの「死をめぐる問題」を理解している。 【知識・理解】 〔ワークシート、テスト〕 ・インフォームドコンセントや自己決定権についての理解を踏まえ、よりよい医療の在り方について考察している。 【思考・判断】 〔ワークシート、発表〕
まとめ	5分	・授業を振り返り、医療の倫理について考えたことを発表する。	・臓器移植の問題については、４時間目でまた取り上げることを予告する。	

現代社会ワークシート［テーマ２／バイオエシックス～生命の質について～］

（　　）年（　　）組（　　）番／氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

↓ の「臓器提供意思表示カード」に、自分自身の意思を正しく記入してみよう！

日本で臓器移植を待つ人は１万３千人。自分が脳死となって最期を迎えたとき、誰かの命を救うことができます。（抜粋）



《該当する1，2，3，の番号を○で囲んだ上で提供したい臓器を○で囲んで下さい》

1. 私は、脳死の判定に従い、脳死後、移植の為に○で囲んだ臓器を提供します。（×をつけた臓器は提供しません）
心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球・その他（　　）

2. 私は、心臓が停止した死後、移植の為に○で囲んだ臓器を提供します。（×をつけた臓器は提供しません）
腎臓・膵臓・眼球・その他（　　）

3. 私は、臓器を提供しません。

署名年月日：　　年　　月　　日

本人署名（自筆）：

家族署名（自筆）：

（可能であれば、この意思表示カードをもっていることを知っている家族が、そのことの確認の為に署名して下さい。）

１＜<u>先端医療技術の進歩</u>＞によって生じる「死をめぐる問題」に関して，①～④をまとめなさい。

①【 **人の死** 】…【　　】の停止、【　　】の停止、【＿＿＿＿の＿＿＿＿】という３つの徴候で判断。

②【 **脳　死** 】…【　　】全体の機能が停止して、回復が不可能な状態。先端医療技術が発達し、脳の機能が停止しても【　　】の使用により呼吸や【　　】を補助してしばらくのあいだは【　　】を動かし続けることができる。

③【　　】… 大脳全部あるいは一部の機能が停止している状態。【　　】できることが多く、回復することがある。

④【　　】… 苦痛を強いるだけの【＿＿＿＿＿＿を＿＿＿＿】、生命を自然な状態にまかせること。【＿＿＿の＿＿＿＿＿】により人間としての尊厳ある死を選ぶこと。

２＜<u>医療の倫理</u>＞について，私たちの意思が尊重される医療とは何か、考えてみよう！

①【　　】… 医者の患者に対する「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」という態度（＝＿＿＿＿＿＿＿）

②【　　】（＝＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

… 医者が患者に対し、診断や治療に関する【　　】を患者に十分に【　　】して患者が【　　】すること。

③【＿＿＿＿＿＿＿**権**】… どのような治療法を選ぶのかを【　　】が決定する権利

★ 映画『パッチ・アダムス』のシーンを参考に＜医療の倫理＞についての感想をのべよ。

４時間目では、生徒に臓器提供に関するアンケートに答えさせてから世論調査等のデータを示し、自分の意見と対比させながら、臓器移植の現状を理解させた。そして、臓器移植法の規定を確認した上で、「自分だったら脳死での臓器提供をするか、しないか」を考えさせた。そして、その根拠について、資料等も活用して記述させ、最後に何人か発表させた。発表を聞く際には、よく聞いて、自分と異なる意見をメモするように指示した。生徒はそれぞれ自分の思いを表現することができたのではないかと思う。また、クラスメートの意見を聞くことで、自分とは異なる多様な考え方に気付くことができた。

≪４時間目≫

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
導入	10分	・「臓器移植」についてのアンケートに答え、自らの回答と**資料１・２**とを比較して現状を把握する。	・臓器移植への理解が進んでいる反面、制度が浸透していないことを理解させる。	
展開	35分	・教科書を参考に、「臓器移植法」における臓器提供が可能な条件をまとめる。 ・教科書や資料を参考に、自分だったら脳死判定後の臓器提供をするかどうか、論述する。	・根拠となる資料やデータをできるだけ明示させる。	・臓器移植の現状と課題について理解している。 【知識・理解】 〔ワークシート、発問〕 ・既習事項や資料をもとに、根拠を挙げて自分の考えを分かりやすく論述している。 【資料活用の技能・表現】 〔ワークシート、テスト〕
まとめ	５分	・まとめた意見を発表する。	・自分と異なる意見や、異なる立場の見解について、メモをとらせる。	

授業は、テーマごとに作成したワークシートを使用して進めた。ワークシートには、必ず画像や表などを貼り付けて、文字情報が多くなりすぎないよう配慮した。また、生徒自身の言葉でまとめさせたり、意見や感想を書かせたりするなど、文章で記述する場面を多くして、日頃から文章で表現することに慣れさせるよう留意している。そのため、生徒は、「書くこと」に対して抵抗感をもたずに書き始めることができるようになっている。

なお、本時のワークシートは、生徒個人の信条やプライバシーに関わる内容が含まれているため、場合によっては無記名とするなどの配慮が必要である。

現代社会ワークシート［テーマ４／臓器移植の課題］

（　　）年（　　）組（　　）番／氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

「臓器移植」についてのアンケートに答え、資料１・２の結果･分析と比較してみよう！

Ｑ１：あなたは脳死判定後に臓器を提供したいと思っていますか？

① 提供したい　② どちらかといえば提供したい　③ わからない
④ どちらかといえば提供したくない　⑤ 提供したくない

Ｑ２：あなたは臓器提供に備えて「意思表示カード」などに記入し所持していますか？

① 記入し所持している　② 未記入だが所持している　③ 所持していない

１）『＿臓器移植法＿』について、教科書を読んでまとめ、臓器提供の条件を確認してみよう！

①＜「臓器移植法」での臓器提供の条件（可否）＞

… 本人が脳死判定にしたがい臓器を提供する＿＿＿＿があることを＿＿＿＿＿＿＿＿し、＿＿＿＿が臓器の摘出を拒まない場合にかぎり、脳死を「人の死」とし、脳死後の臓器提供を可能としている。

②＜本人の意思表示がない場合＞

家族が＿＿＿＿	提供＿＿＿＿
家族がいない	
家族が**承諾**	家族が承諾した臓器（腎臓･角膜について）を＿＿＿＿＿＿に提供できる。

２）資料４や教科書などを参考に、あなたは脳死判定後に臓器を提供するか、それともしないか、理由や根拠をあげて論述しなさい。

私は，脳死判定後に臓器を（　提供する　／　提供しない　）。
その理由は

あなたと異なる意見の人の見解や立場もメモしてみよう！

現代社会 資料［テーマ４／臓器移植の課題］

（　　）年（　　）組（　　）番／氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

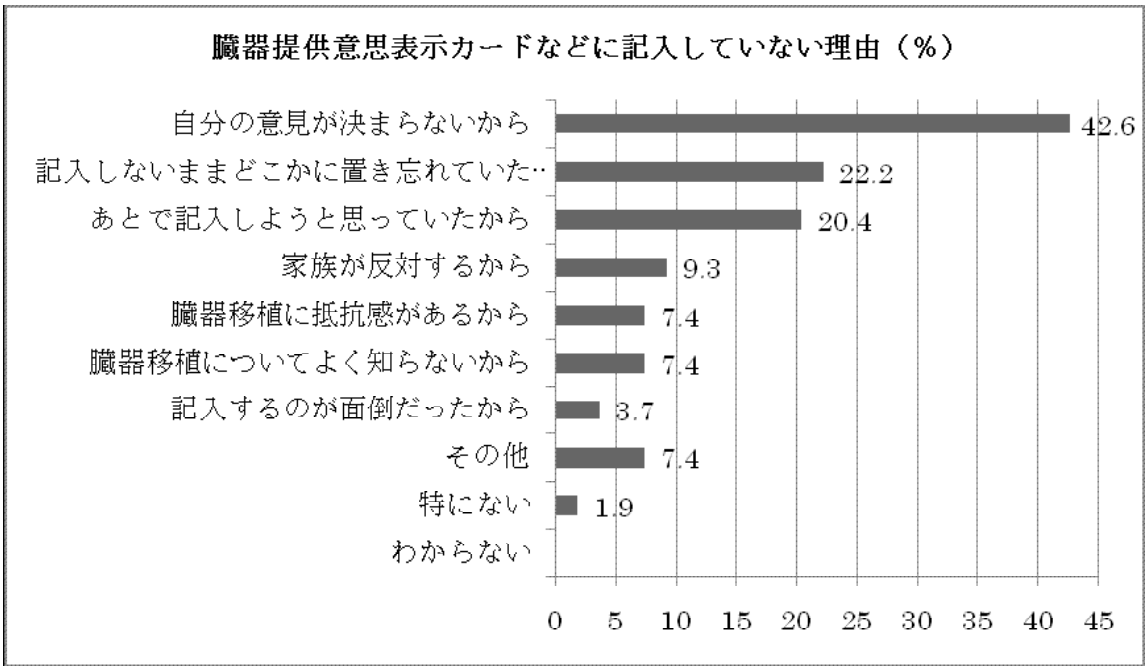
資料１

タイトル「『臓器提供したい』４割超す　意思表示カードなど所持８％」

（内閣府「臓器移植に関する世論調査」の発表を受けた記事）

（2007年1月21日 読売新聞　YOMIURI ONLINEより引用）

資料２



（厚生労働省、平成18年度の意識調査より）

資料３

タイトル「臓器移植法１０年、提供わずか６１例　子供は海外へ」

（臓器移植法施行10年を受けて、臓器移植の現状を伝えた記事）

（2007年10月16日ＭＳＮ産経ニュースより引用）

資料４　脳死判定後の臓器提供（心臓や肝臓など）に対する本人意思（総数1,727人）

・提供したい	22.8%
・どちらかといえば提供したい	18.8%
・どちらともいえない	27.0%
・わからない	3.9%
・どちらかといえば提供したくない	8.1%
・提供したくない	19.4%

（厚生労働省、平成18年度の意識調査より）

(7)論述式の問題による評価

定期テストにおいて、授業に関連したテーマで論述式の問題を出題した。本テーマに関する出題は以下のとおりである。

「臓器移植の課題」について、現行の『臓器移植法』では、書面などで本人の意思表示がない場合、家族が承諾した臓器（腎臓と角膜については）を心停止後に提供することができる。

家族が「脳死」状態になって本人の意思表示がない場合、家族の臓器提供（腎臓と角膜）を心停止後に承諾するか、それとも拒否するか。どのような判断が望ましいと考えるか、自分なりの理由をあげて論述せよ。なお、資料を参考にしてもよい。

【解答欄】

私は、家族の臓器提供を（　承諾　／　拒否　）することが望ましいと考える。
その理由は、

資料１

＜臓器移植について＞

臓器移植は臓器の機能が低下し、移植でしか治らない人と死後に臓器を提供してもいいという人とを結ぶ医療です。

日本で臓器の提供を待っている人はおよそ１万２千人。臓器の提供が少なく、数多くの人が移植を希望しながら亡くなられています。

日本で事故や病気でなくなる人は毎年およそ９０万人。その１％弱、約７千人が脳死になって亡くなると言われています。(以下略)　（(社) 日本臓器移植ネットワークリーフレットより）

資料２

＜臓器移植に関するＱ＆Ａ＞

Ｑ：提供後のからだはどうなりますか？

Ａ：入院している病院で、数時間（３～５時間）の摘出手術をした後にご家族の元に戻ります。臓器を摘出するための傷ができますが、きれいに縫い合わせて、清潔なガーゼをあて、外から見ても傷がわからないようにします。また眼球提供の際は、義眼を入れます。

（(社) 日本臓器移植ネットワークリーフレットより）

資料３ 家族が脳死判定を受けた場合、臓器提供の意思を尊重し提供を認めるかどうか

・尊重し、提供を認める	45.8%
・たぶん尊重し、提供を認める	25.0%
・その時になってみないとわからない	18.9%
・たぶん尊重せず、提供を認めない	4.0%
・尊重せず、提供を認めない	6.4%

（総数1,727人）

（厚生労働省、平成18年度の意識調査より）

授業では「自分自身の臓器提供」について考えさせたが、テストでは、「家族が意思表示をしていない場合の臓器提供」を取り上げた。授業とは異なる設定とし、初めて提示された問題に対して、生徒の思考・判断力、表現力を評価したいと考えた。ただし、個々の信条や経験等に配慮し、自分だったらどうするかを直接問うのでなく、「どのような判断が望ましいと考えるか」という問いかけとした。

論述問題を定期テストに出題する場合、生徒にきちんと取り組ませるためには、事前に何らかの指導が必要である。事前に指導をしないと、生徒は書く気にならず白紙で解答したり、筋道立てて考えることをせずに論旨のあいまいな文章を書いてしまったりする傾向がある。

そこで、テスト前に以下のような「学習の記録」を用いて、授業で扱った内容やテーマについて復習する時間を確保した。授業の目標やポイントについて教師が説明して生徒に書かせた後、教科書や授業のワークシートも利用して授業内容を振り返り、学んだ内容をまとめさせた。生徒は、テスト直前に試験範囲の学習内容を復習することで、学んだ知識を踏まえて論述する準備をすることができ、書く意欲が高まった。

現代社会「学習の記録」

（　　）年（　　）組（　　）番／氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

テーマ１　／　科学技術の発達と生命の問題	
目標（ポイント）	**内容（わかったこと）**
テーマ２　／　バイオエシックス～生命の質について～	
目標（ポイント）	**内容（わかったこと）**
テーマ３　／　環境倫理～生命への畏敬～	
目標（ポイント）	**内容（わかったこと）**
テーマ４　／　臓器移植の課題	
目標（ポイント）	**内容（わかったこと）**

また、テストに論述式の問題を出題する際に、採点の難しさが障壁となる場合が多いと思われる。特に、語句や用語の説明でなく、生徒自身に自由に意見や考えを書かせる場合、採点の煩雑さや困難さが問題となる。また、採点する際に、内容の適切さよりも書いたことに対する意欲を評価しがちになる傾向もある。

そこで、採点基準を予めできるだけ具体的に設定することにより、採点をしやすくし、採点のブレを少なくできるようにした。そして、その採点基準を事前に生徒に知らせることで、生徒自身が論述に求められていることを理解し、それに沿って記述するよう促した。論述問題の配点を10点満点とし、採点基準を以下のように設定した。

①内容の正確さ（５点）
- □ 問いに対して正しく答えているか。　・・・２点
- □ 言葉や知識を正しく理解して使っているか。　・・・１点
- □ 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。　・・・２点

②意見の自分らしさ（３点）
- □ 自分なりの意見を述べているか。　・・・２点
- □ 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。　・・・１点

③文章の読みやすさ（２点）
- □ 筋道を立てて文章を書いているか。　・・・１点
- □ 誤字や脱字がないか。　・・・１点

採点基準を作成するにあたっては、論述問題である以上、記述内容が正しいかどうかという観点が最も重要であると考えた。「内容の正確さ」という観点を設定し、それをさらに出題の意図を的確にとらえているか、事象や用語の理解が正確か、根拠が明確か、という３つの小観点に分けて評価することとした。２つ目として、「意見の自分らしさ」という観点を設けた。その中では、自分自身の言葉で表現しているか、という小観点のほか、自分で新たに調べたことを付け加えているか、という小観点を設定した。これによって、生徒が自ら何かを調べようとする姿勢をもつよう促したいと考えた。３つ目として、筋道だった矛盾のない文章であるかどうか、また、誤字や脱字がないかどうか、という「文章の読みやすさ」を評価の観点とした。

採点基準について生徒に説明する際には、「内容の正確さ」はもちろん大切だが、「意見の自分らしさ」も重要な評価対象であるという点を強調した。授業で学習した内容に関連して、自分なりに調べ、消化した上で自分の言葉で表現することが重要であり、主体的に学ぶ姿勢をもつようになることを期待した。

以下に、生徒の解答と、採点例をいくつか掲げる。

生徒Ａ

私は、家族の臓器提供を（ 承諾 ／ 拒否 ）することが望ましいと考える。
その理由は、
臓器提供を待っている人の命を救いたいのと、私の家族もそれを望んでいると思うからです。臓器提供を待っている人達は、毎日辛い治療をしながら、それでも生きたいという強い希望を持っていると思います。以前、家族と一緒に見たテレビ番組で、自分より小さい子が臓器提供を待っているというものがありました。その子は、食べ物を食べることができずにいました。それなのに、わがままもいわず毎日希望を持って生きていました。そのかいあってか、臓器提供が実現されたのです。今まで食べれなかった物を食べれるようになり、その子も家族もとても幸せそう

でした。それから間もなく、その子は亡くなってしまいましたが、その子も家族も後悔はしてないと思います。臓器提供の夢がかなって、きっとその子にとっては最高の人生が送れた事と思います。そのテレビを見てから、私は、「臓器提供ってすごいことなんだな。」と思うようになりました。自分、あるいは自分の家族が誰かの命を救うことができることはとても良いことだと思います。命のバトンをいつまでもつなげていきたいです。

①内容の正確さ（４点 ／５点）

□ 問いに対して正しく答えているか。	２点／２点	
□ 言葉や知識を正しく理解して使っているか。	１点／１点	
□ 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。	１点／２点	

②意見の自分らしさ（３点 ／３点）

□ 自分なりの意見を述べているか。	２点／２点	
□ 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。	１点／１点	

③文章の読みやすさ（２点 ／２点）

□ 筋道を立てて文章を書いているか。	１点／１点	
□ 誤字や脱字がないか。	１点／１点	合計９点／10点

生徒Ｂ

私は、家族の臓器提供を（ 承諾 ／ 拒否 ）することが望ましいと考える。

その理由は、

家族の意志が分からないからです。臓器提供によって、誰かが救われるとしたら、自分だったら提供ずるかも知れません。しかし、自分の家族は提供したくないと思っていたかも知れないので、提供するという意思表示がない以上は、提供すべきでないと思います。それに、自分の家族の体が傷つけられるのは何となくイヤな気がします。特に眼球を提供して義眼を入れるのはイヤです。でももし自分や自分の家族の目が見えなくて、角膜を移植すれば見えるようになるのだとしたら、移植を望むだろうと思います。このように他人のことと自分のことでは考えが違ってしまうので、自分の意思を家族にもきちんと伝えておくべきだと思います。

①内容の正確さ（５点 ／５点）

□ 問いに対して正しく答えているか。	２点／２点	
□ 言葉や知識を正しく理解して使っているか。	１点／１点	
□ 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。	２点／２点	

②意見の自分らしさ（２点 ／３点）

□ 自分なりの意見を述べているか。	２点／２点	
□ 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。	０点／１点	

③文章の読みやすさ（２点 ／２点）

□ 筋道を立てて文章を書いているか。	０点／１点	
□ 誤字や脱字がないか。	１点／１点	合計８点／10点

生徒Ｃ

私は、家族の臓器提供を（ 承諾 ／ 拒否 ）することが望ましいと考える。

その理由は、

脳死は植物状態とは違って生命維持装置があればずっと生きていけます。しかし、私はそれはかわいそうだと思います。なぜならば、“生きてる”より“生かされる”という意味に近いから

です。脳死と判断されたら、心臓を提供してあげたいなと思います。生まれつきで心臓の弱い子などを助けたいと思います。周りの家族の人が反対しても、説明して納得させ、未来の世代に自分の体をつなげていけたらすごいと思います。 これから医療技術が発展すれば、臓器提供があたりまえの時代になっていくと思います。今、４５．８％の人が提供を認めています。これがいずれ１００％になるよう、人と人とが支えあっていく社会ができればいいなと思います。		
①内容の正確さ（１点 ／５点）		
□ 問いに対して正しく答えているか。	０点／２点	
□ 言葉や知識を正しく理解して使っているか。	０点／１点	
□ 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。	１点／２点	
②意見の自分らしさ（２点 ／３点）		
□ 自分なりの意見を述べているか。	２点／２点	
□ 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。	０点／１点	
③文章の読みやすさ（１点 ／２点）		
□ 筋道を立てて文章を書いているか。	０点／１点	
□ 誤字や脱字がないか。	１点／１点	合計４点／10点

人間の死のとらえ方や臓器移植など、生徒にとってはあまりなじみのない難しいテーマを扱ったが、多くの生徒は自分なりに理由をあげて「どのような判断が望ましいと考えるか」を論述することができた。中には、生徒Ｃのようにあやふやな知識から論じているものや、出題の意図を踏まえずに自分の考えを展開しているもの、単なる感想になってしまった解答も見られた。生徒が、正確な知識・理解を土台として自らの意見を主張できるように、また、何を書くべきかをきちんととらえて論じられるように、指導を工夫しなければならないと感じた。

なお、指導する際には、生命科学に限らず科学技術は日々進歩するものであって、現在正しいとされていることが将来変わる可能性もある、ということを指摘する必要がある。また、脳死判定や臓器移植の是非等について、ひとつの価値判断を推奨したり一方的な見方、考え方に偏ったりしないように、教師自身が留意するとともに、生徒にも意識させることが大切である。

実践２　豊かさとは何かを考える

(1)単元名　現代の経済生活と経済活動

(2)単元の目標

現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と産業保全について理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の経済社会の諸事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動の在り方について考えようとしている。	現代の経済社会の諸事象から課題を見いだし、個人と企業の経済活動における社会的責任等について多面的・多角的に考察するとともに、経済活動の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の経済社会に関する諸資料から、学習に役立つ情報を選択して活用するとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任や経済活動の在り方について考察したり追究した結果を適切に表現している。	現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と産業保全について理解し、その知識を身に付けている。

(4)指導計画

時	学　習　内　容
1	豊かな社会を求めて～私たちの社会と経済状況～【本時】
2	経済の仕組み～資本主義と経済成長
3	戦後の日本経済の歩み～高度経済成長からバブルの崩壊まで～
4	企業の役割とはたらき
5	株式投資とバブル経済～キャピタルゲインを狙え！～
6	租税と財政政策
7	社会保障制度
8	労働環境を考える ～労働と経営～
9	環境を守るために
10	私たちの食べ物と日本の農業
11	企業と私たち一人ひとりの責任

(5)本時の目標

国内総生産や国民総所得等についての資料を活用して、経済の発達とはどのようなことか、また、豊かさとは何かを多面的、多角的に考察させ、現代の経済社会の諸事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究する態度を身に付けさせる。

(6)授業展開

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画〔評価方法〕
導入	10分	・自分たちの住む社会について、豊かさ（満足な点）と貧しさ（不満足な点）をワークシートに記入する。	・ブレーンストーミングにより、できるだけ多くの意見を挙げさせる。	
展開	30分	・ＧＤＰなどの経済指標について理解し、教科書の統計資料を読み取ってワークシートの表を完成させ、日本の一人あたりの国民総所得の推移を考察する。 ・地図帳の統計資料を利用して、世界の国々の人口、産業別人口の割合、ＧＮＩなどを調べ、経済成長と産業構造の高度化について理解する。 ・他国と比較して日本は豊かといえるかどうかを考える。	・物価水準の相違に気付かせ、実質的にどれだけ所得が伸びたか、豊かさの中身について考えさせる。 ・先進国と発展途上国とを比較させ、産業別人口の割合の特徴、そしてＧＮＩの相違に気付かせる。その際、ＧＮＩなどの数値を単純に比較してよいかどうか、疑問を投げかけて考えさせる。	・資料を適切に活用して豊かさとは何かを多面的・多角的に考察している。 【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 〔ワークシート、テスト〕 ・現代の経済社会の諸事象に対する関心が高まり、それを意欲的に追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】 〔発問、観察〕
まとめ	10分	・豊かな国とはどのような国か、授業を振り返って考え、授業で印象に残ったことを学習の記録ワークシートにまとめる。		

(7)実践の概要

本実践は、経済の単元「現代の経済生活と経済活動」の１時間目として設定した。経済指標や各種統計資料を活用しながら、現在の日本の経済状況を概観すると同時に、「豊かさ」について考えさせることをねらいとした。そして、今後の経済分野の学習に対する生徒の興味・関心を高めることを目指した。

導入で、生徒の今の生活について豊かさを感じる点（満足している点）と貧しさを感じる点（不満足な点）を思い浮かべて記入させた。その後、国内総生産と国民総所得について説明し、教科書や地図帳の統計資料を使用して、「日本の一人あたり国民総所得の推移」の表を完成させた。表から日本経済の発展を数値で実感することができるが、その数値をそのまま単純に受け止めてよいのかどうか、生徒に問いかけ考えさせた。さらに、「世界各国の経済状況」の表を完成させ、他国との比較という視点で日本は豊かな社会といえるかどうかを考えさせた。

現代社会ワークシート［テーマ１／豊かな社会を求めて～私たちの社会と経済状況～］

（　　）年（　　）組（　　）番／氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

☆ 私たちの住む社会の「豊かさ（満足な点）」と「貧しさ（不満足な点）」を書き出してみよう

豊かさ（満足な点）	貧しさ（不満足な点）

★ 私たちは豊かな社会で生活しているだろうか、教科書や地図帳の統計資料から考えてみよう

（1）「日本の一人あたり国民総所得の推移」を参考に、日本は年々豊かになっていると言えるか？

日本の一人あたり国民総所得		
年　代	所得額	差額
１９６０		―
１９７０		
１９８０		
１９９０		
２０００		
２００５		

＜経済の大きさをはかる「経済指標」＞

①国内総生産＝ＧＤＰ（Ｇ＿＿＿Ｄ＿＿＿＿＿Ｐ＿＿＿＿）

【　　】年間に【　　】で生産された【　　】の生産額をすべて合計した額。または，【　　】（＝新しく付け加えられた値打ち）の合計。

②国民総所得＝ＧＮＩ（ＧrossＮ＿＿＿＿ Income）

＊以前は＿＿＿＿＿＿＿＿（GNP）が使われていた。

★昔と今のＧＮＩを単純に比較してよいのだろうか？

（2）「世界各国の経済状況」と比較して、日本は豊かな社会と言えるか？

国　名	人 口（万人）2004年	1人あたりの国民総所得（ドル）2004年	産業別人口の割合（%）2004年		
			第１次	第２次	第３次
日　本					
アメリカ合衆国					
サウジアラビア					
ガーナ					
シエラレオネ			※老年人口率（65歳以上）　　%		

★各国の統計を比較して分かることは？

（3）＿＿＿＿＿＿＿の高度化：日本では産業別所得や就業人口の比重が次の①から③へ移った。

①第一次産業 …【　　・　　・　　】業

②第二次産業 …【　　・　　】業

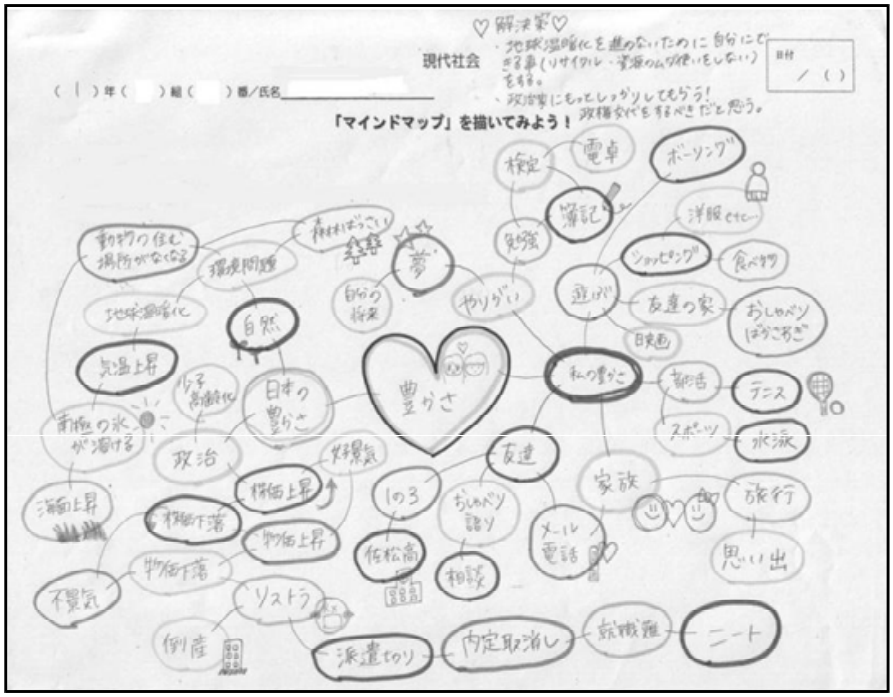
③第三次産業 …【　　・　　・　　】業

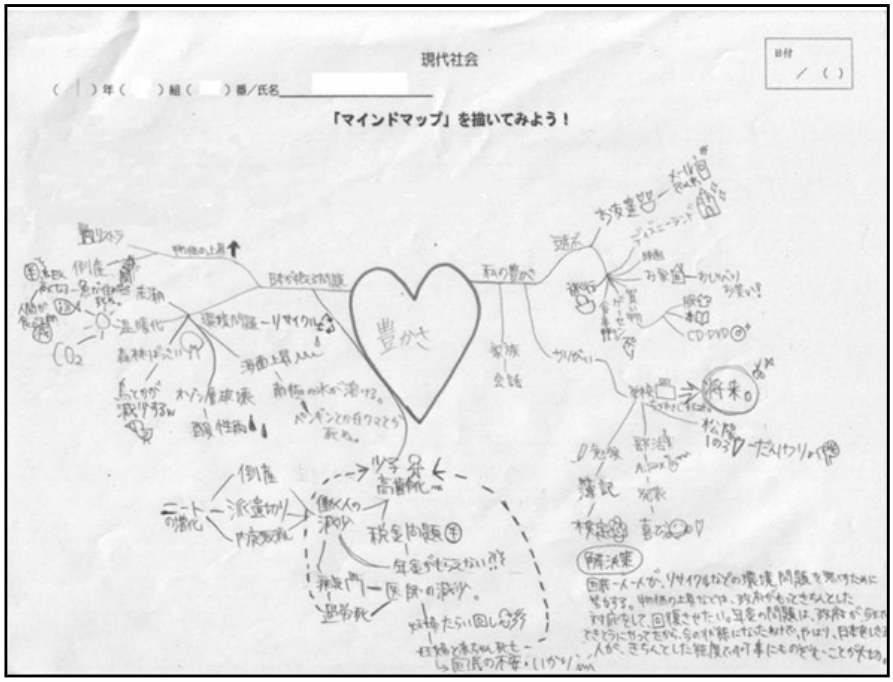
→ 先進国では、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿へと比重が移行した。

授業やテストで論述に取り組ませる中で、現状の批判をすることはできても、課題解決を提案できない生徒が多いことに気付いた。また、多面的、多角的に広く物事を見たり考えたりする力が不足していると感じた。そこで、テスト前の授業の振り返りの時間を利用して、イメージマップを作成させることで、思考力を高め、課題解決的なアイデアを引き出すことを試みた。

用紙の中央に、今回のキーワードである「豊かさ」と書かせ、「豊かさ」から連想できる言葉やイメージを放射状につなげて自由に記入させた。イメージマップを描きながら、自分にとって豊かさとは何か、それを実現するにあたっての課題は何か、そして課題を解決するための方策について、考えを整理させた。また、実践１と同様、「学習の記録ワークシート」を使った振り返りも行い、授業で学習した内容の復習をさせた。

以下は、生徒が作成したイメージマップである。





(8) 論述式の問題による評価

本実践では、以下のような論述式の問題を出題した。

> あなたにとって「豊かさ」とは何か。
> その豊かさを今の日本で実現しようとすると、どんな問題があるか。
> 問題の解決策も提案しなさい。

採点基準は以下のように設定した。この論述式の問題では、観点②の「意見の自分らしさ」の配点を高くし、自分なりの考えや課題の解決策が記述されることを期待した。

> ①内容の正確さ（４点）
> □ 問いに対して正しく答えているか。　・・・１点
> □ 言葉や知識を正しく理解して使っているか。　・・・１点
> □ 資料を適切に用いるなど根拠を述べているか。　・・・２点
> ②意見の自分らしさ（４点）
> □ 自分なりの意見を述べているか。　・・・３点
> □ 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。・・・１点
> ③文章の読みやすさ（２点）
> □ 筋道を立てて文章を書いているか。　・・・１点
> □ 誤字や脱字がないか。　・・・１点

以下に、生徒の解答と採点例をいくつか挙げる。

生徒Ａ

> 私にとっての「豊かさ」とは心に余裕をもてることだと思う。
> 現在、日本の国では「各家庭に給付金を支給しよう」という案が出ているが、お金があれば豊かということではない。またこの給付金についても「すべての家庭に支給する」、「高所得には辞退してもらう」など意見が二転三転している。政府が安定しないことが日本が今抱えている大

きな問題だと思う。
　政治家というのは自分の事しか考えない人が多いと思う。だから日本全体が安定しなくなる。人間全員が心に余裕をもつことができれば、政治家達も国民のことを考えられるようになる。それにより国が安定し、少年犯罪、裏金など日本の抱える多くの問題が解決すると思う。
　心に余裕を持ち、人の事を考えられる人が本当の「豊か」だと私は思う。

①内容の正確さ（３点 ／４点）
- □ 問いに対して正しく答えているか。　１点／１点
- □ 言葉や知識を正しく理解し使っているか。　１点／１点
- □ 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。　１点／２点

②意見の自分らしさ（４点 ／４点）
- □ 自分なりの意見を述べているか。　３点／３点
- □ 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。　１点／１点

③文章の読みやすさ（１点 ／２点）
- □ 筋道を立てて，文章を書いているか。　０点／１点
- □ 誤字や脱字がないか。　１点／１点　　合計８点／10点

生徒Ｂ

　私にとっての豊かさとは健康である。
　日本の健康指標は５位、「平均寿命」と「人口当たり病院ベッド数」は１位だ。しかし、日本が医師不足に陥っているというのも事実だ。妊婦の受け入れ拒否の問題もあった。医師たちは声を揃えて自らを弁護していた。また、医師免許を持っていない人間が医師として働いていたこともある。そのことからも医師が不足しているのは明白だ。
　ベッドが足りていようが、病院が受け入れを拒否するのであれば意味がない。平均寿命が長かろうが、病を患ったときに治療を施し、支えてくれる人がいないのであれば意味がない。
　私は日本の医師不足が解消されない限り、どんなに食料があろうが、学力が高かろうが、豊かではないと思う。病に、そして受け入れ拒否のたらい回しに怯え暮らす生活のどこが豊かだろうか。病院のベッド数や平均寿命を気にするよりも、まず若い医師の育成に力を注いでほしいと思う。

①内容の正確さ（３点 ／４点）
- □ 問いに対して正しく答えているか。　１点／１点
- □ 言葉や知識を正しく理解し使っているか。　１点／１点
- □ 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。　１点／２点

②意見の自分らしさ（４点 ／４点）
- □ 自分なりの意見を述べているか。　３点／３点
- □ 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。　１点／１点

③文章の読みやすさ（２点 ／２点）
- □ 筋道を立てて文章を書いているか。　１点／１点
- □ 誤字や脱字がないか。　１点／１点　　合計９点／10点

生徒Ｃ

　日本は、主要先進国の中では、豊かさが１位で今とっても豊かな生活をしていると思う。今、１番日本が豊かだと感じる時は、携帯電話を小学生でも持っていることだ。欲しい物がすぐ手に

入って、とても豊かな生活を過ごしている。だが、その豊かさとは反対に大きな問題もおこっている。誰もが携帯を持っていることで、いろいろな問題がある。

たとえば、中傷メールや簡単にどんなサイトにもアクセスできることだ。そのようなサイトにアクセスしてトラブルがおこったと、よくニュースなどで耳にすることがある。それはどのように解決できるだろうか。

問題がおこるから携帯を持たせないようにするのは、違うと思う。携帯は、どこにいるかなど便利な機能も付いている。その問題を解決するためには、１人１人がちゃんと気をつけ親と相談などし、アクセスできるサイトを制限するなどの前向きな解決策が必要だと思う。

①内容の正確さ（２点 ／４点）		
□ 問いに対して正しく答えているか。	０点／１点	
□ 言葉や知識を正しく理解し使っているか。	１点／１点	
□ 資料を適切に用いるなどして根拠を述べているか。	１点／２点	
②意見の自分らしさ（３点 ／４点）		
□ 自分なりの意見を述べているか。	２点／３点	
□ 授業以外で調べた新しい知識を付け加えているか。	１点／１点	
③文章の読みやすさ（２点 ／２点）		
□ 筋道を立てて，文章を書いているか。	１点／１点	
□ 誤字や脱字がないか。	１点／１点	合計７点／10点

多くの生徒が、自分にとって「豊かさ」とは何か、それを実現しようとすると何が問題か、そして問題の解決策、という出題に沿って論述することができた。イメージマップを作成したことにより、様々な事柄の中から自分の考えを整理し、焦点を絞り込むことができたようである。課題解決まで論じることができた生徒も多かった。反面、アイデアが多岐にわたったためか、論点が経済の問題から離れてしまい、生徒Ｃのように携帯電話の問題を論じたり、環境問題を取り上げたりする生徒もみられた。経済についての学習を踏まえて論述させるためには、「経済的な視点から書きなさい」等の指示が必要であった。

３　まとめ

(1)成果

授業において、生徒に考えさせたり、意見や感想を書かせたり、発表させたりする活動を繰り返すことにより、文章を書くことに対する抵抗感が薄れただけでなく、自分の意見や考えを表現することに対して前向きな姿勢をもつ生徒が増えた。「次回はどのような論述問題が出されるのか」と質問してくる生徒もでてきた。書くことで自分の考えを明確にすることができ、自分を表現することができることに気付いたのではないだろうか。授業中、生徒に発問したり意見を求めたりした際に、積極的に答える様子もみられるようになり、「現代社会」の学習に対する意欲が高まってきたことが感じられた。

生徒の記述内容についても、当初は感想文や意見文のようなものが多かったが、徐々にではあるが、論旨の一貫した論理的な文章も書けるようになりつつある。

定期テストで論述式の問題を出題して評価することは、生徒の思考力、表現力の育成に効果があった。授業の中で「書く」ことと、テストで「書く」ことでは、生徒の意識に大きな違いがあり、テストに出題することによって、より真剣に取り組む様子が見られた。

論述問題の採点基準を細分化、明確化したことにより、採点方針がぶれにくくなり、教師自身

が採点で悩むことが格段に少なくなった。生徒に対しても、採点基準を事前に周知し、説明したため、以前は多かった採点に対する質問や疑問がほとんど出なくなった。また、生徒が基準に沿って論述することを意識するようになり、論述の形式、内容ともに整ってきている。

さらに、今回の実践を通して、思考法についても多くのことを学んだ。ブレーンストーミングを取り入れたことで、ある程度、生徒の思考を広げ、様々な意見やアイデアを出させることができた。そして、授業のまとめとしてイメージマッピングを行ったことは、学んだ知識や自分が考えたことを整理し、自分自身の意見を明らかにすることに役立った。

以上のように、テーマを設定して考察したり、意見を記述する課題追究学習を授業で日常的に取り入れ、論述式の問題を定期テストで問うことで、生徒の思考力、表現力の育成がある程度できたと考える。

(2)課題

授業で文章を書かせ、定期テストで学習内容に関連した論述式の問題を出題したが、その後の指導を行うことができなかった。テストでの評価をもとに、十分ではなかった部分を考え直し、書き直しをさせるなどの指導ができれば、さらに生徒の書く力を高めることができると考えられる。将来、多くの生徒が就職や進学に際して小論文を書く必要がでてくることも考慮し、より字数が多く内容もしっかりとした小論文が書けるようになることを目標として、指導をしていきたい。

また、今回、生徒の思考を促すため、ブレーンストーミングやイメージマップの作成を試みたが、生徒の思考力を高めるには十分とはいえなかった。ブレーンストーミングは授業の導入において短時間しか実践できず、教師が中心となって行ったため、生徒の主体的な学習とならず、自由な発想や意見を十分に引き出せたとはいえなかった。イメージマップの作成についても、生徒にとって初めての経験であり、教師の説明も不十分だったためか、マッピングしたことが論述に結びつかない生徒も見られた。

さらに、授業の中で、生徒に意見を発表させ、他の生徒の考えを知ることができるよう心がけたが、生徒の学びあいが十分なされたとはいえなかった。今後、グループ学習の機会を増やして、話し合いをもとに意見をまとめて発表させるなどの活動も取り入れたい。

事例３　身近な商品を通して考えさせる課題追究学習と評価の工夫

１　ねらい

この事例では、「市場経済のしくみ」の単元において、身近にある様々な商品から課題を発見させたり考えさせたりする活動を通して、生徒の思考力、判断力を育成することを目指した。授業の導入部で生徒の興味・関心を高めたり、社会事象等の説明を具体的に分かりすく行ったりするため、多数の写真パネルを自作して活用した。また、新聞記事や広告などを材料に、経済活動について生徒に考えさせるとともに、何らかの疑問や課題意識をもって「現代社会」の学習に臨むように促した。そして、学習の成果を適切に表現できるかどうかを記述式の問題で評価することを試みた。なお、授業実践は第１学年を対象に行った。

２　授業実践

(1)単元名　市場経済のしくみ

(2)単元の目標

市場経済のしくみや現代の市場経済の状況について関心を高め、見いだした課題について様々な資料を活用して多角的・多面的に考察させるとともに、基本的な知識を身に付けさせる。

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
市場経済のしくみや現代の市場経済の状況に対する関心を高め、課題を見いだし追究しようとしている。	市場経済のしくみや現代の市場経済の状況について、多面的・多角的に考察している。	収集した資料の中から、市場経済のしくみや現代の市場経済の状況についての学習に役立つ情報を、主体的に選択して活用している。	市場経済のしくみや現代の市場経済の状況について理解し、基本的な知識を身に付けている。

(4)指導計画

１時間目　市場経済のしくみと市場の失敗

２時間目　独占・寡占、価格の決まり方を考える

(5)実践の概要

市場経済の基本である需要と供給についての、生徒の理解状況を把握するとともに、生徒の学習への意識と関心を高めるために、次のような「事前アンケート」を実施した。

質問　人気のある携帯は、価格が（　①　）。

質問　観光旅館の宿泊料金は、平日よりも週末のほうが（　②　）。

質問　みかんが豊作だった年は、みかんの価格は（　③　）。

質問　なぜそうなるのか…　それは普通、モノやサービスの価格は、（　　④　　）時に価格が上昇し、（　　⑤　　）時に価格が下がるから。

※解答例

①　高い　　②　高い　　③　安い

④　需要量より供給量が少ない（他に…品不足・人気があるなど）

⑤　需要量より供給量が多い（他に…品余り・人気がないなど）

結果は以下のとおりである。

①②③ともに正解…39名中36名（完全正答率92．3%）

④⑤ともに正解……39名中25名（完全正答率64．1%）

①②③については、実体験からなんとなく分かるが、なぜそうなるのかという法則は理解できていない生徒が多い。中学校で需要と供給の関係については学んできているが、需要と供給を反対に覚えている生徒も多く、また、需要側の感覚は理解しているが、供給側の感覚は理解できない様子がうかがえる。

事前アンケートの結果を踏まえて、１時間目は、需要と供給について分かりやすく説明した。自作パネルを用いて、親しみやすく具体的な説明になるように心がけた。

《１時間目》

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画〔評価方法〕
導入	10分	・本時の学習内容について、事前アンケートの結果を聞きながら確認する。	・事前アンケートの結果を発表し、生徒の予備知識の状況を知らせる。	
展開	30分	・市場と市場価格について理解する。 ・需要と供給の法則について、パネルを見ながら教師の説明を聞き、理解する。 ・伸縮的な価格と固定的な価格について理解する。	・みかんの写真と生徒の顔写真とのパネルを使用し、生徒の興味・関心を高める。 ・発問を多く行い、教師の説明に終始しないよう留意する。 ・顔写真の使用については十分に配慮し、当該生徒に事前の承諾を得る。	・市場経済のしくみについて理解し、基本的知識を身に付けている。 【知識・理解】 〔発問、テスト〕
まとめ	10分	・本時の学習を振り返る。	・自分の興味のある新聞広告を、次回持ってくるよう指示する。	

以下は、使用したパネルの一部及び授業の様子である。

年度当初より、「現代社会」の授業ではほぼ毎時間、その日の学習内容に関係する画像のパネルを作成して活用した。主に授業の導入において、生徒の興味・関心を引き付けて授業に引き込むために使用することが多いが、本実践の１時間目のように、生徒にとって抽象的で理解しにくい概念を説明する際に用いることもあった。パネルに使用する写真等には、主にインターネット上におけるオープンコンテンツである「ウィキペディア」に掲載されている画像を利用した。画像をＡ３判サイズに拡大し、厚紙の台紙に貼り付けた。「ウィキペディア」では、それぞれの項目に関して画像が添えられていることが多く、オープンコンテンツであるため、文章・画像などの創作物が共有した状態に置かれ、複製や改変などについての制約がかけられていないので、手軽に利用できるというメリットがある。ただし、記載内容は全て正しいとは限らないため、利用にあたっては十分に注意する必要がある。

《２時間目》（導入は省略した）

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画〔評価方法〕
展開	40分	・独占・寡占について、パネルを見ながら教師の説明を聞いて理解する。 ・企業が価格を管理しようとするのはなぜかを考える。 ・独占禁止法と公正取引委員会の役割について理解し、その目的を考える。 ・グループを作り、持ち寄った新聞広告の商品やサービスの価格を見て、需要と供給の関係が影響している価格について考える。 ・価格がどのように決められるのか、疑問に感じることを出し合う。 ・グループごとに、考えた結果を発表する。	・ゲーム機やビールのパネルを使用し、生徒の興味・関心を高める。 ・これまでの学習内容を踏まえて、商品やサービスの実際の価格の決まり方について、疑問をもたせる。	・現代の市場経済の状況に対する関心を高め、課題を見いだし追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】 〔観察、発表〕 ・市場経済のしくみや現代の市場の状況について、選択した資料を活用して多面的・多角的に考察している。 【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 〔ワークシート、発表〕
まとめ	5分	・本時の学習を振り返る。		

２時間目では、まず、独占と寡占、独占禁止法、市場の失敗について基本的な内容を説明した。独占・寡占については、ゲーム機とビールの写真パネルを用いて生徒の興味を引き付け、身近で具体的な事例を取り上げた。

使用したパネルの一部及び授業の様子は以下の通りである。

次に、５人程度のグループを作らせ、各自が持ち寄った新聞広告を見て、掲載されている様々な商品やサービスの中で、需要と供給の関係から価格が決まったと考えられるものは何かを考えさせた。生徒が持ってきた広告は多種多様であったが、価格機構のメカニズムが働いていると考えられるのは、ほぼ生鮮食品に限られた。ただし、生鮮食品でも、曜日や時間を限った安売り等が頻繁に行われているため、純粋に需要・供給から価格が決まるケースは、実際にはほとんどないことが分かった。

その後、新聞広告の中から、価格に関して気付いたことや疑問に感じることを出し合って考えさせた。生徒からは、次のように、売り手(供給)側が様々な商品を安売りしていることに着目した意見が多く出された。

「『Ａ社』の特売で、ふだんより1000円も安く売るのはなぜか。損をしないのか。」
「通販で売っているものは安いと思う。」
「日にち（曜日）限定で、とても安く売っているものがある。」
「『Ｂ社』はどうしてこんなに安いのか。」
「２つとか３つまとめて買うと、１つあたりの値段が安くなることがある。」

これに対して、その理由について考えるよう促したところ、次のような意見が出された。

「安売りを宣伝してお客さんを多く呼ぶ。」
「店に来れば安売りではない物も買ってくれる。」
「大量に仕入れるので安く売ることができる。」
「広告に載せていないもので利益を出そうとしている。」
「安くした分多くの人が買ってくれれば利益がでると思う。」
「安い分まとめ買いするので結果的には店がもうかる。」

需要・供給という言葉を使って説明できた生徒はいなかったが、広告が消費者の購買意欲を刺激して需要を高めることをねらったものである、ということはおおむね理解している様子がうかがわれた。ここでは、経済分野の単元の導入的な内容であることから、深く追究させることより

も、生徒が「価格」を題材として経済活動に自ら課題を見いだすことや、以後の学習への興味・関心を高めることに重点をおいた。新聞広告は身近なものだが、普段はじっくり見ることが少ないためか、生徒は新鮮に感じた様子で活発に意見を出し合っていた。

(6)ペーパーテストによる評価

「市場経済のしくみ」の単元に関し、定期テストにおいて次のような問題を作成した。

【３】市場経済のしくみについて、次の文を読み、問いに答えよ。

市場経済では、需要量が供給量を上回るときには価格が（　①　）し、供給量が需要量を上回るときには価格が（　②　）する。このように需要量と供給量の間に差があるときには<u>価格の変化を通して品不足や品余りが自然に解消される</u>。需要量と供給量を一致させる価格は（　③　）価格とよばれる。

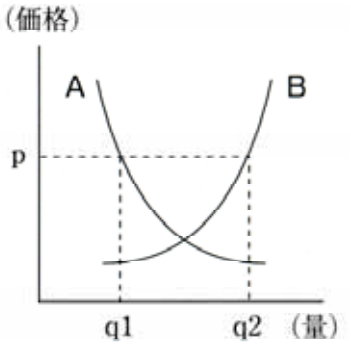


図１

問１　文中の（　①　）～（　③　）にあてはまる語句を答えよ。

問２　文中の下線部を何というか。

問３　図１で、供給曲線は**A・B**のどちらか。

問４　図１で、価格がｐのとき、どのようなことが起きるか、簡潔に説明せよ。

問５　図２は家電量販店の新聞広告の例である。この広告を出した売り手（供給）側の意図・目的を、「需要」と「価格」の語を用いて説明せよ。

図２

全館一斉大幅値下げ！
★今だけのスペシャルプライス★
32型デジタルハイビジョン液晶テレビ
先着５台限り 168,000円→128,000円
ＨＤＤ内蔵ブルーレイレコーダー
在庫限り　77,800円→47,800円
◎12月１日から12月31日まで◎
★期間中、毎日抽選で20名様に
５千円分の金券プレゼント！
○○電機

問６　次の文章は、ある新聞記事の要旨である。これを読んで下の各問いに答えよ。

タイトル「ゲーム機の液晶パネルでカルテルか」
「Ｃ社」のゲーム機の液晶パネルをめぐり、価格カルテル（※）を結んでいた疑いがあるとして、〔　　〕は、液晶パネルメーカー２社に立ち入り調査を行った。
〔　　〕が立ち入り調査を行ったのは、「Ｄ社」と「Ｅ社」。「Ｃ社」は、この２社から液晶パネルを購入していたが、２社が話し合いを行って価格を決めていた疑いが持たれており、〔　　〕は、独占禁止法に違反する恐れがあるとみている。
※価格カルテル…少数の大企業が、価格協定を結ぶこと。

（１）〔　　〕にあてはまる組織名を答えよ。

（２）この事例は、消費者にとって不利益が生じるケースだが、具体的にどのような不利益が生じると考えられるか、簡潔に答えよ。

問７　寡占市場の特徴の記述として、誤っているものを次から１つ選べ。

ア　少数の大企業による寡占状態においては、商品デザインの差別化などの非価格競争が生じやすい。

イ　少数の大企業による寡占状態においては、宣伝・広告による消費者への情報がゆがめられやすい。

ウ　少数の大企業による寡占状態においては、供給が過剰になったり、生産費が安くなったりすると、直ちに価格に反映されやすい。

エ　少数の大企業による寡占状態においては、プライス・リーダーによる価格設定に他の企業が追随する管理価格が形成されやすい。

【解答例】
問１　①　上昇　②　下落　③　均衡
問２（価格の）自動調節機能（「神の見えざる手」も部分点）
問３　　Ｂ
問４　ｑ２－ｑ１の売れ残りが起こり価格が下がる。
問５　価格を下げることによって、需要を高めて商品が売れるようにする。
問６（１）　公正取引委員会
（２）ゲーム機の価格が下がりにくくなるおそれがある。など
問７　　ウ

今回の問題では、単純な知識だけでなく思考力、判断力、表現力を問う問題として、問４、問５、問６の（２）を作成した。各問の正答率は以下のとおりである。

問１　①　92.3%　②　92.3%　③　94.9%（未記入３名）
問２　33.3%（未記入４名）
問３　71.2%
問４　30.1%（未記入８名）
問５　65.3%（未記入８名）
問６（１）　84.5%（未記入２名）
（２）　66.7%（未記入７名）
問７　38.4%

問１、問３、問６の（１）のように、基本的な知識を問う問題は正答率が高く、生徒の努力の結果が見てとれた。しかし、問２、問４の正答率が低いことから、「価格の自動調節機能」について理解が十分でなく、グラフから供給超過を読み取り説明することができない生徒が多いことが分かった。需要と供給についての基本的な理解やイメージはあるが、理論的、抽象的な概念として定着していないことがうかがわれた。

問５は、新聞広告を題材とした課題追究学習を踏まえて、学習の成果を適切に表現させる問題として設定した。授業では、安売りの理由について考えたものの、需要・供給といった語を用いて説明するまでには至らなかった。そこでテストでは、広告の意図を、「価格」と「需要」という語句を使用して適切に記述できるかどうかを問うた。生徒の主な解答は次のとおりである。

（正　答）「売り手は、今だけに限定して価格を下げて、需要を増やそうとしている。」
「価格を下げると、買う気になる人が増えるので、需要量が増える。」
「価格を下げたり金券をプレゼントしたりして、いろいろな方法でお客さんを呼び、需要につながるようにしている。」

（部分点）「ボーナスの時期に合わせて価格を下げて、売り上げを増やそうとしている。」
「12月は需要が増える時期なので価格を下げている。」
（誤　答）「ボーナスが出るので、値下げすれば高いテレビなども売れるから。」
「5000円プレゼントで価格よりもっと安く買える気になる。」

生徒は、図２に示された情報をもとに、授業で話し合ったことを思い出しながら、指定された用語をどのように使って表現するかを考えていた。価格を下げることと需要が高まることの関連が正しく記述されていれば正解とし、６割以上の生徒が正しく記述することができた。部分点の生徒の解答をみると、「需要」の語を正しく使用することができなかったものが多く、誤答の生徒は指定語句を使っていなかったり、問題の意図に沿っていなかったりするものが多かった。

問６の（２）では、７割近くの生徒が、新聞記事の内容を踏まえて、消費者が受ける不利益について具体的に説明することができた。

一方で、寡占市場に関する説明文の正誤を判断する問６は、予想外に正答率が低かった。授業で非価格競争等について十分に説明できなかったことも一因であったが、正確な理解や知識の確実な定着という点で課題が見られた。

ただし、記述式の問題をいつもより多く取り入れたにも関わらず、未記入の解答は少なく、普段の授業に対する姿勢と同様に、テストにも前向きに臨んでいたことが分かった。

(7)授業アンケート結果

授業実践後にアンケートを実施した。質問項目及び結果は以下の通りである。

４：あてはまる　３：おおむねあてはまる　２：あまりあてはまらない　１：あてはまらない

Ⅰ　自己評価

(1)授業内容を理解できましたか。
４…　17名　３…　19名　２…　２名　１…　０名

(2)自ら進んで学べましたか。
４…　６名　３…　25名　２…　７名　１…　０名

(3)楽しく学習ができましたか。
４…　23名　３…　15名　２…　０名　１…　０名

(4)資料集は活用していますか。
４…　２名　３…　７名　２…　17名　１…　12名

(5)授業後の復習はしていますか。
４…　０名　３…　８名　２…　25名　１…　５名

Ⅱ　授業評価

(1)授業内容は分かりやすかったですか。
４…　25名　３…　12名　２…　１名　１…　０名

(2)話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
４…　31名　３…　７名　２…　０名　１…　０名

(3)板書は分かりやすかったですか。
４…　31名　３…　７名　２…　０名　１…　０名

(4)先生からの質問は適切でしたか。
４…　21名　３…　17名　２…　０名　１…　０名

(5)興味・関心がもてる授業でしたか。
４…　23名　３…　13名　２…　２名　１…　０名

Ⅲ　授業に対しての感想（自由意見）

・パネルがあるので、授業内容が理解しやすかった。
・ビールやゲーム機を例に挙げているので、身近な感じがして理解しやすかった。
・話が面白くて良かった。
・授業が楽しいからやる気が出る。
・ずっと書いていることがなく、ちょっとした談笑などがあるので良い。
・パネルの量が多ければ多いほど、興味がわく。
・分かりやすくて楽しい。
・具体例を示すときに、パネルは分かりやすい。
・たまに、授業が早く展開しすぎて追いつけないときがある。
・中学校の時に学んだときは分からなかったが、今回でかなり理解できた。
・板書がとても書き写しやすく、分かりやすかった。充実した授業だったと思う。

Ⅰの自己評価については、「授業内容を理解できたか」「楽しく学習できたか」という質問に対し、肯定的な回答がほとんどであった。特に、「自ら進んで学べたか」という質問に対して、38名中31名が肯定的な回答しており、多くの生徒が主体的に学んでいると感じていることが分かった。Ⅱの、教師に対する授業評価についても、「分かりやすいか」「興味関心がもてるか」という質問に対して、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしている。自由記述にも「パネルを使うと理解しやすい」「興味がわく」等とあるように、自作パネルを活用することが、授業への高い評価につながっていると考えられる。また、「先生からの質問は適切か」という質問に対して全員が肯定的な回答をしていることから、適切な発問が、生徒の授業に向かう気持ちをそらさず、また生徒の思考を促している様子がうかがわれた。

3　まとめ

(1)成果

生徒にとって身近な商品をパネルという目に見える形で提示したり、新聞や広告などを活用したりすることにより、生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見いだして考えさせることが、ある程度できた。アンケート結果からは、パネルの使用と発問が、生徒の気持ちを授業に向けさせ、集中力も切れにくくしていることが分かった。また、生徒が前向きに楽しく授業に参加しているという意識も読み取れた。授業中も、発問に対して生徒からの積極的な発言が多く出るなど、授業が活性化するのを感じた。

また、授業で学んだことを踏まえて文章で記述させる問題に対して、生徒はおおむね適切に解答することができた。授業中に考えたり意見を発表したりする活動を行うことで、生徒の記憶に残り学習内容の定着につながったものと考えられる。

(2)課題

生徒は「自ら進んで学べた」という意識をもっているものの、実際は課題追究的な学習においても教師と生徒とのやりとりが中心で、教師が主導する場面が多かった。話し合いをもとに意見をまとめて発表させるなどの活動を多く取り入れ、生徒同士の学び合いを促し、主体的に学ぶ態度を育てたい。

また、生徒は、基本的事項の理解度が高く、授業で学習したことについて記述することはできたが、やや難度の高い問題やグラフから読み取ったことを理論的に説明する問題には苦労している様子が見られた。知識の確実な定着と活用が課題であると同時に、今後は、学んだことを踏まえて自分の考えを適切に表現できる力を付けさせたい。

おわりに

本研究の実践では、課題追究学習を通して生徒の思考力、判断力、表現力を育成するとともに、人間としての在り方生き方を考える姿勢を身に付けさせることを目指した。また、それらの力を評価するペーパーテストの作成にも取り組み、それぞれ一定の成果をあげることができたと考えている。各学校において、本研究の実践を、生徒の実態に合わせて活用していただければ幸いである。その際、以下に示すような指導の工夫をお願いしたい。

１　継続的、反復的な課題追究学習の取り組み

思考力、判断力や表現力は、すぐに身に付くものではない。生徒に考えさせたり、話し合いをさせたり、発表させたりする活動を反復して行うことにより、徐々に育成されるものである。本研究の実践においても、生徒は、考えたり表現したりすることに慣れることで、次第にスムーズに取り組むことができるようになった。教師もまた、反復して行うことで指導に習熟し、より効率的かつ効果的に課題追究学習を実践することができると考えられる。日常の授業で繰り返し取り組むことが重要であり、その際には、学習のねらいを明確にして、「何のためにこの活動をするのか」を生徒にも理解させた上で実践することが大切である。

２　表現力育成の取り組み

学習した成果や考察した結果を適切に表現したり、根拠を明らかにして自分の意見や立場を表明したりする力を付けることは、これから社会に出て行く生徒にとって非常に重要である。また、何かを表現するためには、裏付けとなる知識・理解と自分なりの思考・判断に加えて、伝えようとする意欲も必要である。表現力は、幅広い学力が総合されたものであり、人間としての在り方生き方を考えることに直結するものであるともいえるのではないだろうか。「現代社会」において、自分の意見を書いたり、話し合ったことをまとめて発表したりすることなどに積極的に取り組ませ、表現力を育成することが大切である。

３　評価の工夫と評価力の向上

「知識・理解」に偏らない学力を身に付けさせるために、思考力や判断力、表現力を育む指導を工夫するとともに、それらを適切に評価するために、ペーパーテストなどの評価についても工夫することが大切である。本研究において、生徒は、知識・理解以外の観点からも評価されるという実感をもった結果、学習に取り組む姿勢に変容が見られた。教師も指導と評価を一体化するように考えて授業を構築し、学習活動とテストとを関連付けた結果、多様な観点から評価することができた。

また、記述式や論述式での評価も取り入れていく必要がある。例えば、2000年、2003年のPISA調査（OECD生徒の学習到達度調査）で読解力が１位であったフィンランドでは、選択式の問題でも選んだ理由を書かせる試験が行われている。このように成果の上がっている指導法を参考にして、論理的な思考力と、意見を相手に伝える力を育成するために、意見や理由について記述させる学習活動を積極的に取り入れるとともに、記述に対する評価を重視していく必要がある。新学習指導要領においても、「言語活動の充実」が掲げられ、各教科において論述や討論などの学習を充実させることが求められている。

これらのことに加えて、「知識・理解」に偏らない学力を評価するためには、教師の評価力を向上させることが必要である。多様な評価方法を知ることや、作問をするためのスキルを身に付けること、また適切な評価基準を作成することなど、教師が評価の在り方についてあらためて考え、取り組む必要がある。

高等学校における教科指導の充実
公　民　科
「現代社会」における課題追究学習と評価の工夫

発　行　　平成21年3月
栃木県総合教育センター　研究調査部
〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204　　FAX 028-665-7303
URL http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/